

目 次

1. 目的	1
2. 烏帽子山公園の歴史	2
3. 烏帽子山公園の桜の現状と課題	4
4. 烏帽子山公園の桜の保全・管理	7
(1) 桜の衰弱の原因	7
① 根系の状況による衰弱	7
② 被圧による衰弱	8
③ 老齢化による衰弱	8
(2) 烏帽子山公園の桜の育成のためには ～これまでの樹勢回復作業を踏まえて～	9
① 間伐・伐採	9
② 剪定	10
③ 低木化	11
④ 新植・更新	13
⑤ 土壌改良	14
⑥ 根系対策	16
⑦ 病虫害・鳥対策	18
(3) 伐採木の活用	20
5. 烏帽子山公園の景観整備	21
(1) 公園内の視点場（ビューポイント）の整備	21
① シンボルツリー周辺エリア	22
② 見晴らし台周辺エリア	25
③ その他	28
(2) 外からみた烏帽子山公園	30
(3) 烏帽子山公園からの景色	31
6. 烏帽子山公園の草花	32
7. 地域と行政との連携・協力	37
8. 資料	

1 目的

烏帽子山公園は、置賜盆地を一望できる丘陵の上に位置する。園内には、800本を超える樹木が植栽され、うち約600本を桜が占める。その景観の美しさから、平成2年には「さくら名所100選」に選ばれ、平成6年には「置賜さくら回廊」の南の基点に定められた。南陽市を代表する桜の名所であり、毎年春には、桜を楽しむためにたくさんの人々が訪れ、賑わいをみせている。

しかし、近年の烏帽子山公園の桜をめぐる環境は、過密状態による悪影響や老木化などにより必ずしも良好な状態とはいえない。桜の樹勢の衰退が進んできており、対応策の検討・実施が求められている。

このような状況下、この計画は、歴史ある烏帽子山公園の桜の景観を次世代に引き継ぐために、桜の保全・管理の方法、また、桜を楽しむことのできる景観の整備について方針を定めるものである。



2 烏帽子山公園の歴史

現在の烏帽子山公園の場所は、奈良時代には古墳があった。のちの公園整備の際に勾玉が発見されており、近くの二色根古墳群などと共にいわゆる赤湯古墳群に含まれるものだったと思われる。

戦国時代には、城として使われた。現在の薬師寺を含む二色根山全域に、非常に大規模な山城である二色根館（二色根城）があり、粟野氏が居住したと伝えられる。烏帽子山には上野山館があり、二色根城との間に位置した中野山館と合わせて、おそらくは二色根城に関係した城だったと思われる。現在の見晴らし台は遠望がきくため、物見として使用されたようだ。現在も公園内に、この当時の曲輪の名残をわずかではあるが見ることができる。

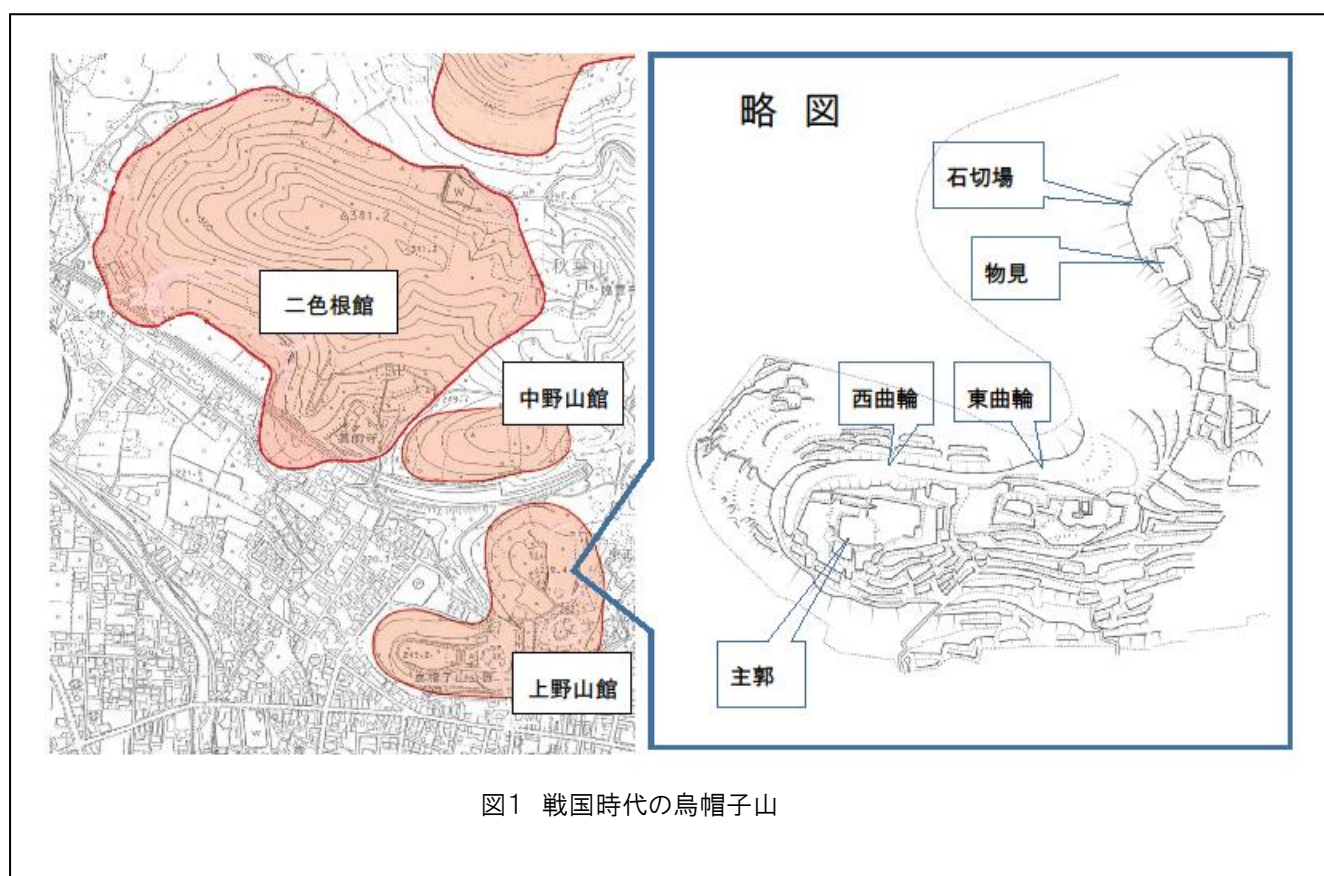


図1 戦国時代の烏帽子山

現在の烏帽子山公園のはじまりとなる整備工事に着手したのが、明治時代である。園内に明治43年に建立された偕楽園碑によると、「明治11年に同志と相談して、良い場所にある烏帽子山を建設の地を選び、花木数百本を植え、樹間に娯楽飲食処を設け富山と名付けた。」とある。同志とは、石岡要三氏をはじめとする16人であり、地域を思うひとかたならない志がきっかけとなったものだった。

建設計画が進んで間もない明治12年と13年には立て続けに2度の大火に見舞われ、公園を含む全域が廃墟となった。しかし、そのような状況下でも整備は継続され、富山の地に加えて二町七反歩（約27,000㎡）の広大な園地となった。明治26年には偕楽園と命名されたが、その後、烏帽子山公園と名前を変えて現在に至っている。

公園の整備とあわせて、町民の信仰の場の創設のため、明治16年に敬神講がつくられ、その3年後

には、現在の北町にあった八幡神社を烏帽子山に遷宮し神苑づくりが着手された。公園同様、16人の有志が中心となり工事が行われ、烏帽子山八幡宮は明治24年に完成した。このときに建立された新営八幡宮碑にはその概要が紹介されており、当時の様子をうかがい知ることができる。

さらに明治36年には、石造大鳥居（市指定文化財）が建立された。この大鳥居をはじめ、狛犬や公園内に残る石垣、石造アーチ橋の康寿橋等は、宮内町出身の名石工吉田善之助とその一門によって造られたものである。

大正時代に描かれた赤湯町鳥瞰図には、烏帽子山公園が中心に位置し、桜が山一面に咲き誇る様子が見て取れる。



写真1 偕楽園碑



写真2 新営八幡宮碑

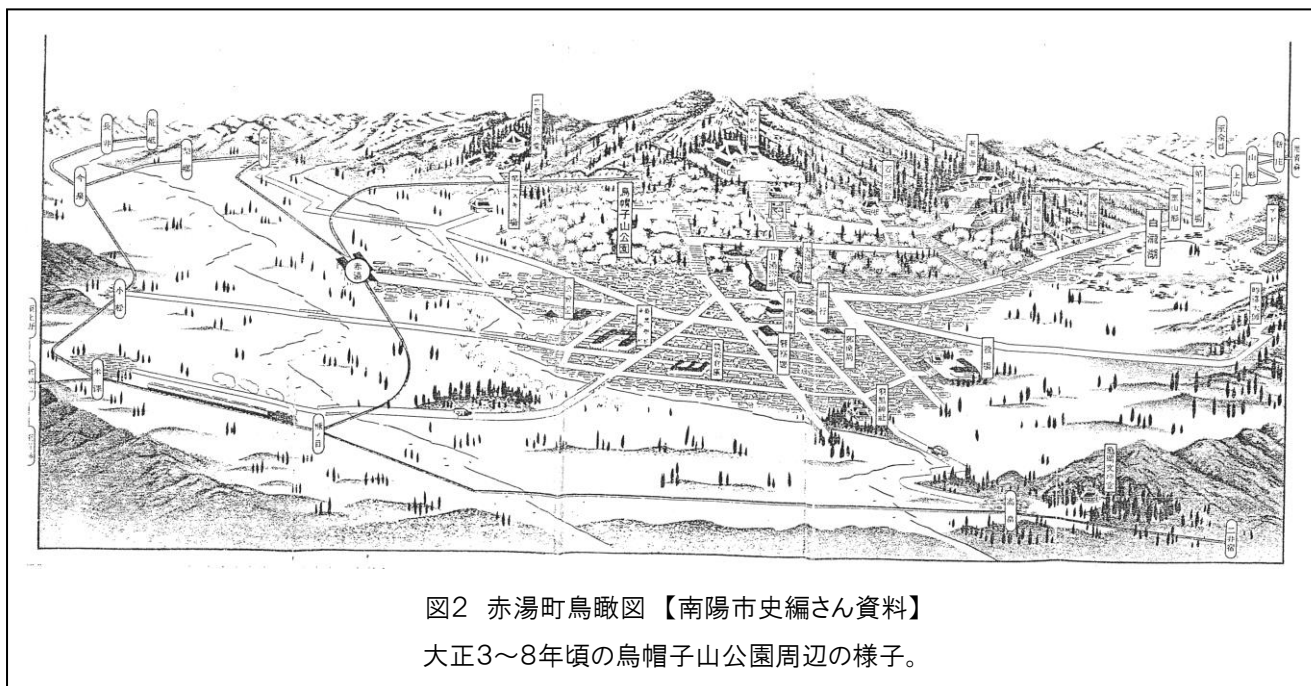


図2 赤湯町鳥瞰図【南陽市史編さん資料】
大正3～8年頃の烏帽子山公園周辺の様子。

平成になって、平成2年3月に日本桜名所100選の地に選定された。これをきっかけに緑化保全や桜愛護の機運が高まり、平成2年4月には烏帽子山千本桜保存会（会長 山川章 会員86名）が設立された。平成5年には、その活動が認められ、日本桜の会から「さくら功労彰」が贈呈されている。

園内には、新たな桜も加えられた。平成2年から18年をかけて、福島の高桜、岐阜の淡墨桜、山形の久保桜や釜の越桜などの名木が植樹され、全国桜名木二代目園が造成された。

3 烏帽子山公園の桜の現状と課題

烏帽子山公園の樹木の植栽状況は、下表のとおりである。

樹種	桜				桜以外の樹木				合計	
	ソメイヨシノ	エドヒガン		その他	計	もみじ	松	その他		計
		シダレザクラ (エドヒガン系)								
本数	333	80	225	34	592	112	55	54	221	813

樹木の本数

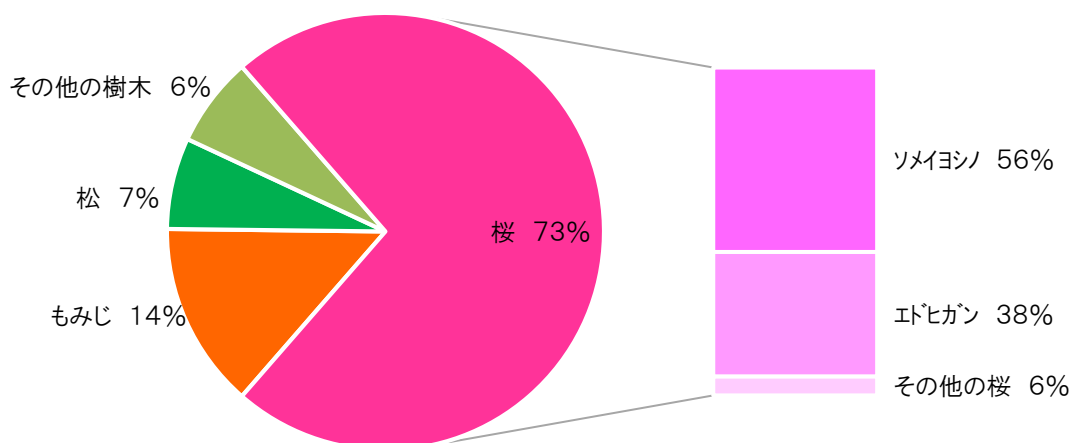


表1 烏帽子山公園の樹木の植栽状況

【平成 29 年 12 月末日現在の状況】

烏帽子山公園の樹木は、桜が70%以上を占めている。桜の内訳は、ソメイヨシノが56%であり半数以上を占め、次いでエドヒガン（エドヒガン系シダレザクラを含む）が38%を占める。

ソメイヨシノは、日本では明治以降、桜の中で圧倒的に多く植えられた人気種である。葉よりも先に花が咲きその姿が派手やかであること、成長が早く幼木から花を咲かせることなどの特色が好まれ、今日では目にする機会が最も多い桜である。

ソメイヨシノを多く植樹した公園は全国に数多く見られ、県内の桜の名所とされるところにおいても、その主な樹種はソメイヨシノであり、ほかの樹種が占める割合はわずかである。烏帽子山公園は、ソメイヨシノと合わせて、シダレザクラを含むエドヒガン系の桜が225本も植栽されている。

福島の滝桜や岐阜の淡墨桜などエドヒガンで有名な場所は、一本のエドヒガンが歴史を重ねて巨大な名木になり、地域のシンボリックな桜になっているというかたちであるが、烏帽子山公園のエドヒガンは群として植栽され、重なり合うように面的な広がりをもっていることが特徴である。自生でなく植栽されたエドヒガンとしては規模が大きいものであり、烏帽子山公園の大きな特色といえる。

烏帽子山公園の主要な二種類の桜には、次のような特徴がある。

<p>種名</p>	<p>ソメイヨシノ</p> 	<p>エドヒガン</p> 	<p>シダレザクラ (エドヒガン系)</p> 
<p>種類</p>	<p>園芸種 エドヒガン系の桜と日本固有種のオオシマザクラの雑種との交配で生まれた</p>	<p>自然種</p>	<p>園芸種</p>
<p>特徴</p>	 <p>がくとう 萼筒の特徴</p>  <p>つりがね型</p>	 <p>がくとう 萼筒の特徴</p>  <p>つぼ型</p>	
<p>特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・花軸は1カ所から5本程度。 ・花が咲いた後に葉が出る。 ・クローンのため一斉に咲く。 ⇒満開のボリューム感がある。 ・花色は咲き始めが淡紅色でその後白色に変わる。 ・樹齢は80～100年が一般的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花軸は1カ所から3本程度。 ・花と葉がほぼ同時に出る。 ・自然種のため咲く時期は個体差がある。 ・花色は薄桃色から白色。個体により花色が微妙に異なる。 ・長寿の桜として知られ、樹齢1000年を超え巨木になるものもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エドヒガンの改良種であるため、同様の特徴がある。 ・枝がしだれている。 ・花色はエドヒガンより多彩で、濃紅色から白色までである。

烏帽子山公園の桜は3～4月の天候が例年とかけ離れたものでなければ、ソメイヨシノが4月20日頃に満開を迎え、エドヒガンはそれから4～5日くらい遅れて開花するようだ。自然種であるエドヒガンの開花はそれほど気象条件に左右されないが、園芸種のソメイヨシノは影響を受けやすい。そのため、

公園全体としての桜の開花の風景もその年それぞれである。一般的にはそれぞれに桜の花が咲く様子を長い期間楽しむことができるが、ソメイヨシノとエドヒガンの開花がほぼ同時になった場合は山一面を桜が覆う絶景を眺めることができる。

下表は、ソメイヨシノとエドヒガンの樹勢及び寿命を示したものである。

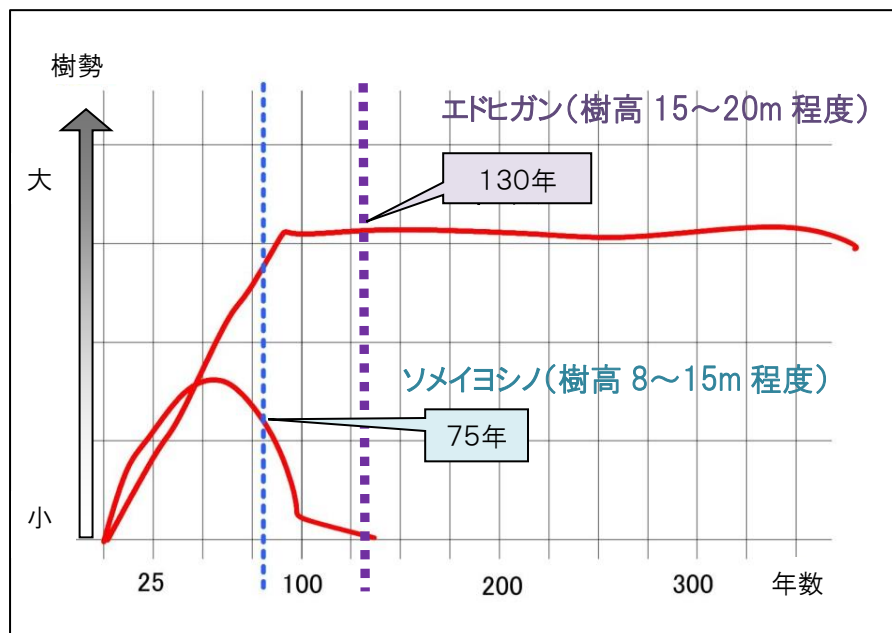


表2
ソメイヨシノとエドヒガンの
樹勢と年数の関係

一般的に、ソメイヨシノは樹齢60年程度までに樹勢のピークを迎えその後は衰退し、寿命は80年から100年といわれる。一方、エドヒガンは長寿といわれ、なかには樹齢1000年を超え巨木となるものも見られる。日本三大桜と呼ばれる、福島県の三春滝桜、山梨県の山高神代桜、岐阜県の根尾谷淡墨桜はすべてエドヒガンである。県内でも長井市の久保の桜がそうであり、東北最大級といわれる。

烏帽子山公園のソメイヨシノの古木は、昭和15年辺りに植樹されたものと思われる。当時は、皇紀2600年を記念し全国各地で様々な記念行事が催され、ソメイヨシノを中心とした桜の植樹もいたるところで実施された。このときに植樹された桜は樹齢75~80年程度と考えられ、樹勢は衰退してきているものと推測される。

一方、エドヒガンは、明治20年前後の烏帽子山公園整備のときに植栽されたものが大半で、樹齢は130年程度と考えられる。今後数百年は樹勢が衰えることなく、むしろ年を重ねることで巨木となりこれから隆盛を迎えると思われる。

烏帽子山公園を代表する桜の景色のひとつは、公園外から見たその全景である。

ソメイヨシノばかりでなく、エドヒガン系の桜が桜全体の40パーセント近くを占めることで、春には満開のソメイヨシノのボリューム感のある淡紅色、エドヒガンの薄桃色や白色、またエドヒガン系シダレザクラの濃淡の桃色が、烏帽子山を多様なピンク色に染める。この烏帽子山公園の魅力を後世に残すため、樹勢の衰えが懸念されるソメイヨシノと、これからも樹勢を保ち樹齢を重ね巨木となるであろうエドヒガンの双方の特性を知り、公園整備や樹木管理の方法を検討し、実施していく必要がある。

4. 烏帽子山公園の桜の保全・管理

(1) 桜の衰弱の原因

① 根系の状況による衰弱

根は、太い根が樹木を支える役割を果たし、細い根が栄養分や水分を吸収する役割を果たす。樹勢に非常に大きな影響を与える部分である。

桜の根系の深さは、図1に見られるように一般的には深さ30cm程度までに密集する。そのため、特に地表に近い土壌の状態や根の状態は、樹木にとって非常に重要である。

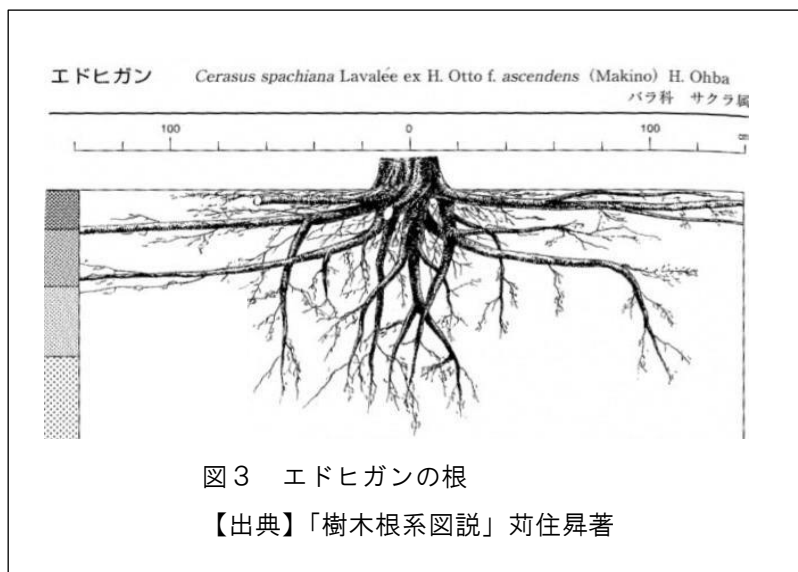
根の衰弱の原因は大きく2つ考えられる。

1つ目は樹木の根が張るもとの土の上に土壌栄養が不足した土や保水性に乏しい土が盛土されることである。酸素を吸収する役割をも果たす根の上に、空気と根を隔てる土が盛土されることで、根は酸欠状態になってしまう。

2つ目は踏圧である。踏圧とは、多くの人々が不用意に根を踏んでしまうことである。踏まれた土は固くなり、水分・栄養分・酸素を吸収する役割を持つ細い根の成長を妨げる。

いずれの場合も、樹木は生育障害を起こしてしまう。

地上からは簡単に地中の様子をうかがい知る事はできないが、だからこそ重要な場所であることを知り、根の健全な生育を促すことが不可欠である。



② 被圧による衰弱

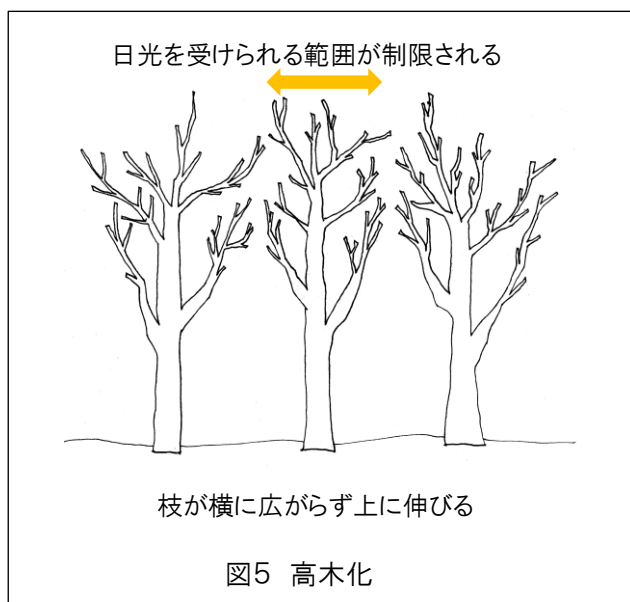
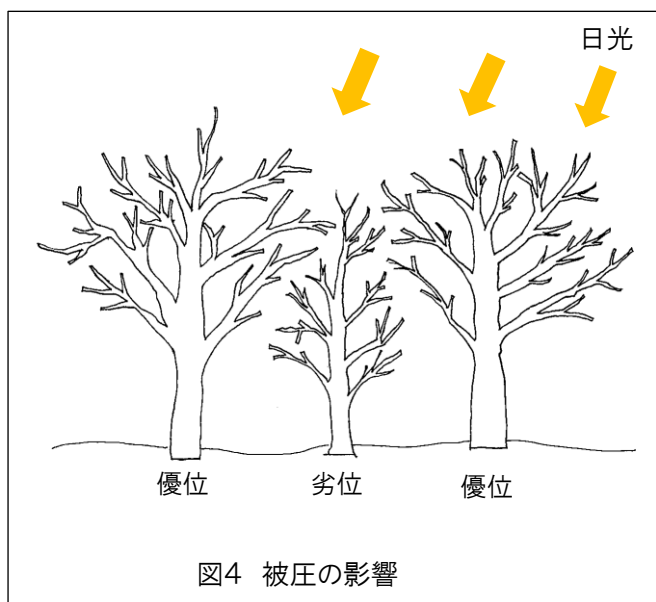
樹木の成長に日光は不可欠である。樹木は葉による光合成で栄養分を作り成長を行う。そのため樹木は、よりよい日照条件を得るために、常に太陽の方向に向けて枝葉を伸ばし、ほかの樹木に負けないうように大きく枝を張ろうとする性質がある。

被圧とは、日照環境で優位に立つ樹木がある一方、劣位となった樹木が十分な日照を得ることができずに、樹勢が衰退することである。衰退した樹木は、様々な病気の影響を受けやすくストレスがかかりやすいため、いっそう衰退が加速してしまう。原因としては、過密度植栽が挙げられる。

また、過密度植栽のもとでは、そのエリア全体の樹木が日照を得るために、枝を横に広げず上へと伸ばすため高木化が起こる場合がある。枝を上へ伸ばしても日光に当たる部分は少ないままであるため、高木化もまた樹勢の衰退の一因となる。

加えて過密度植栽では病虫害も発生しやすい。

これらを防ぐため、成長したときの樹木の大きさを考慮し、隣り合う樹木の枝と枝が重ならないよう間隔を考慮して植樹することが望ましい。また、樹木の成長により樹間が狭くなった場合は間伐することが望ましい。



③ 老齢化による衰弱

ソメイヨシノは、樹齢60年前後に樹勢のピークを迎え、その後衰退し、寿命は100年程と言われる。老齢化がすすむと、花つきが悪くなり枯枝が目立つようになる。また、葉の小型化もみられ、樹勢は衰退の一途をたどる。

しかし、地道な樹勢回復作業や管理作業により、樹齢が130年を超えるソメイヨシノも存在する。春に美しい花を咲かせてくれるよう、土壌改良や日照の確保など、樹木にとって望ましい環境づくりを行うことが重要である。

(2) 烏帽子山公園の桜の育成のためには ～これまでの樹勢回復を踏まえて～

計画の区域は下表のとおりとする。

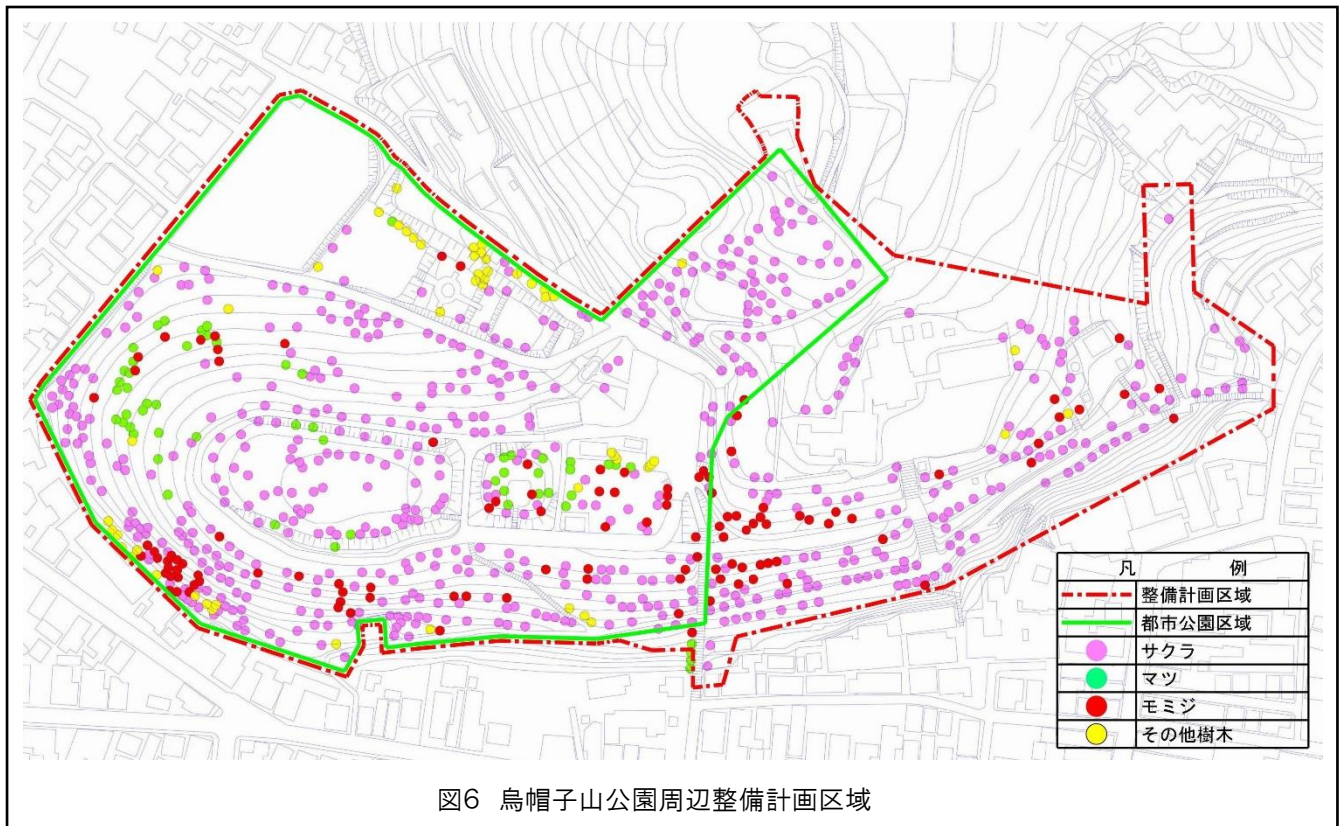


図6 烏帽子山公園周辺整備計画区域

① 間伐・伐採

烏帽子山公園の桜の環境において大きな課題のひとつは、長年の成長を経てほぼ全域が過密状態になっていることであり、樹木の衰退が懸念される。

一般的には自然淘汰されるが、この状況を率先して改善するため、寿命や被圧が原因で枯れてしまったもの、枯れてしまう寸前のもの、また雪害などで大きく枝折れして復元が難しいもの等について伐採を実施している。

加えて今後は、過密状態解消のために、他の桜が生育するうえで支障になりそうな樹木についても、十分に検討し伐採していく必要がある。

前述したとおり、烏帽子山公園には長寿と言われるエドヒガンが多数植栽されている。その中にはこれから何百年も生き、巨大な古木になる可能性を秘めたエドヒガンが存在すると思われる。継続した樹木の観察や植生する場所などか



写真3 雪害によって折れた幹を伐採した桜

ら名木候補の桜を選定したうえで、その成育の支障になる樹木が周囲にあればそれを伐採し、選定したエドヒガンを公園を代表する名木に育てることは、公園の特色・魅力を作り出すうえで非常に有効的である。

対策エリア：全域

② 剪定

剪定は病害虫対策であるとともに、間伐や伐採と同様に過密状態への対応策のひとつでもある。

桜には、テングス病など病気の他に、樹形をみだす徒長枝が発生する。これらを剪定しないで放置すると、テングス病は、日照不足などから病気の蔓延による衰退や他の桜への感染の原因となり、徒長枝は、放置の結果枝枯れすることで枯枝の根元からの腐朽につながってしまう。

剪定とは、樹形を保ちながら日当たりや風通しが良くなるように枝の根元から間引き、さらには、不要な胴吹き枝や徒長枝、枯枝、からみ枝、ふところ枝、テングス病に罹患した枝等を切り取る作業である。その場合、特に桜の場合は、切口からの腐食を防ぐため枝の切り降ろしに注意し、殺菌剤や癒合剤を切口に塗布することが重要である。

烏帽子山公園の桜は過密状態にあり、下枝への日光不足が原因で枯枝が出てしまうため、樹幹部が更に高く伸びる傾向がある。園内は、傾斜地だったり園路が狭かったりするために高所作業車が入れない場所が多く、人力作業に頼らざるを得ない。樹高15m以上に樹幹部が伸びた烏帽子山の桜は、人力作業では限界があり樹幹部先端の剪定が困難な場所もある。

近年は毎年100本程度の剪定作業を行っている。今後も引き続き、間伐と並行しながら下枝まで日光が差し込むような剪定を行うことが重要である。そして、桜が日照条件の良いところに枝を広げられるようにすることで、樹勢を保ち、加えて樹高が高くなり過ぎることを防いでいく。

対策エリア：全域

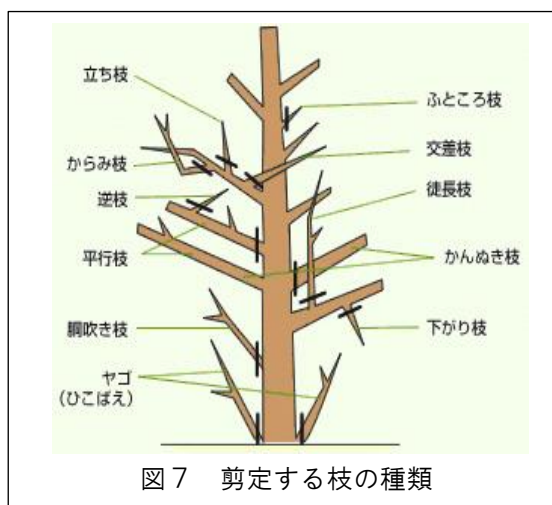


図7 剪定する枝の種類

③ 低木化

烏帽子山公園には、樹高10m以上の桜が約65%以上あり、その中でも15m以上の大型の桜が約20%存在する。そのため、樹幹部先端までの管理が困難な状況である。これは過密状態による高木化の弊害で、低木化を図ることで対応策とすることができる。

平成28年度から、弘前公園の事例を参考にし、2本の桜を選定し低木化を実験的に実施している。必要な分の下枝をつけた後に樹高を7m程度まで段階的に下げてる方法で、現時点で経過は良好である。

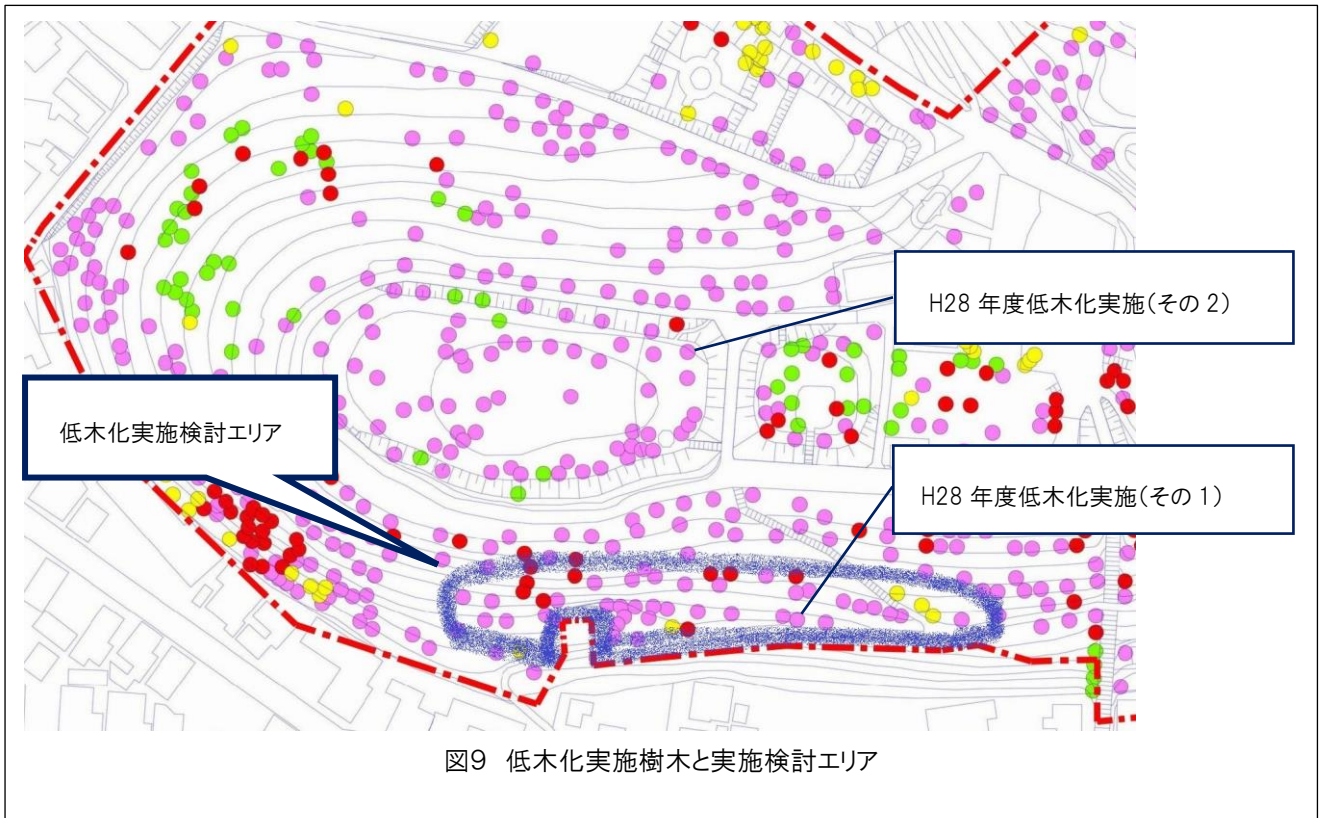
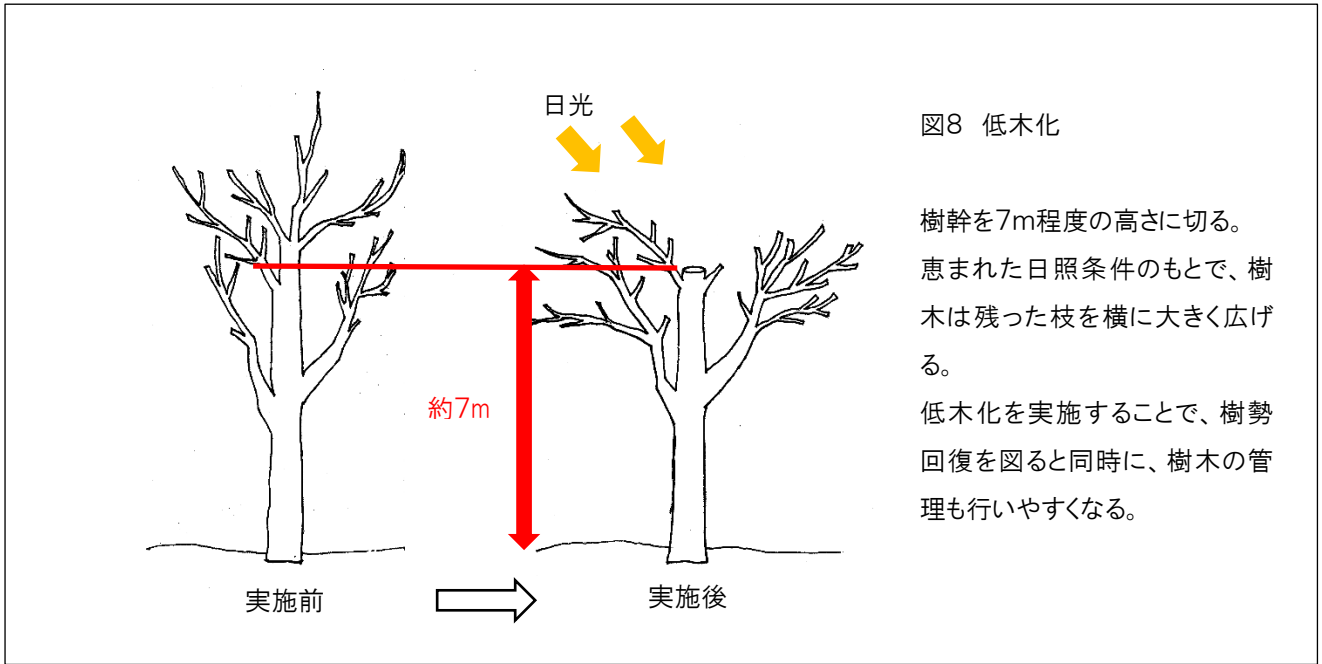
低木化を実施するうえで大切なことは、肥培管理(※)をしっかりと行うことである。特に施肥は欠かせない作業である。衰退が懸念される樹木については、使用した土壌改良材の肥料分の流亡対策や透水性の改善を行う必要がある。さらに、高圧空気灌注機を使用して土壌に圧縮空気を注入し土壌をやわらかくすることで団結した土壌を緩和し、透水性や通気性を改善されることで根が張りやすい土壌環境へ改善する試みも実施している。

また低木化は、公園内のどの桜にでも実施できるわけではなく、桜の南側が大きく開けていて十分な日照が得られる場所でなければならない。対策中の2本の桜について効果が確認できた場合は、日照条件の良い公園南側から作業を進め、徐々に対象エリアを広げていくことが適当と思われる。



写真4 低木化を試みている桜

※肥培管理・・・施肥、水やり、中耕、土寄せ、害虫の駆除などを総合的に管理すること。



④ 新植・更新

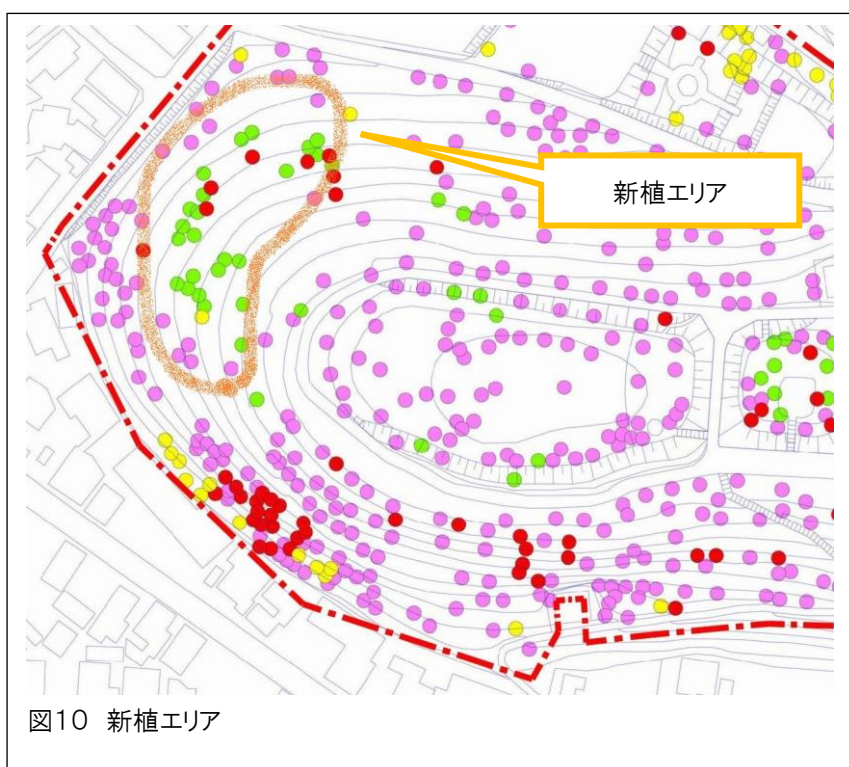
烏帽子山公園は新しく植樹できる場所は限られている。現在の状況で新植が可能な場所は、西側周辺のおおきなスペースのみである。

更新については、枯れてしまった樹木を伐採した跡地を活用して進めて行く。ただし、将来、それぞれの桜が良好な生育環境で成長できるように、樹木同士の間隔などについて十分に検討したうえで実施しなければならない。

また、ソメイヨシノの更新は喫緊の課題である。烏帽子山公園の桜はほぼ同時期に植えられたものと考えられるため、一斉に枯れてしまう可能性がある。一本一本の桜の状態を確認し、樹勢の衰退が著しいものについては伐採し更新木を植えていくことが不可欠である。

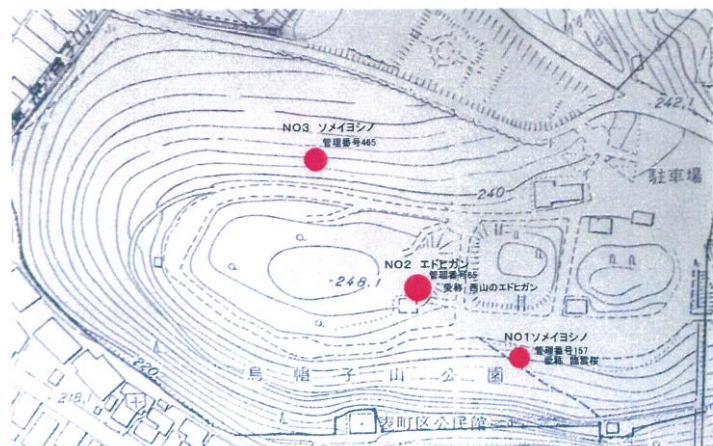
樹木の成長は非常にゆっくりで現在の大きさになるまでには数十年を要するため、間伐作業との調整を取りながら公園全体について計画的に取り組むことが必要である。

加えて樹種の選定も重要である。桜は樹種によって成長速度に違いがある。ソメイヨシノとエドヒガンと比較した場合、ソメイヨシノは成長が早く、エドヒガンよりも短期間で枝葉を広げることができる。一方、エドヒガンは成長が遅いため、近くに成長の早い樹木があったり、そもそもほかの樹木などにより日照条件が芳しくなかったりする場所では、ほかの樹木の劣位となり成長は期待されない。どのような環境に植樹するのかにより、適した樹種を見極めることが必要である。



⑤ 土壌改良

烏帽子山公園は丘陵地帯で、基本的な土壌は凝灰岩でもろい。特に南面は急な斜面で、土壌栄養に乏しく根の密度も小さいため、植栽条件は好適とはいえない。一方、北斜面は緩やかな斜面で肥沃な表土に恵まれ、植栽地として適当な条件にある。



樹幹より東側

樹幹より北側

名称	評価基準	NO1-1	NO1-2	NO2	NO3
粒径組成	壤土(L)～埴壤土(CL)	砂質壤土(SL)	砂質壤土(SL)	軽埴土(LiC)	埴壤土(CL)
		△	△	△	○
土壌硬度		深さ10cm程度まで良好○、50cm程度まで悪い×、50cm下部以降不良××	40cm程度まで不良××、50cm程度まで悪い×、50cm以降不良××	10cm程度まで良好○、20cm程度まで不良×、20cm以降良△	全体良好○
	総合評価	良△	不良××	良△	良好○
	原因	下層の礫質	舗装転圧による土壌緊密	表土に用いた客土の緊密化	
現場透水状況	樹木生育への影響度	影響 小	影響 大 排水処理を実施する必要性大	影響 小	影響なし
PH	樹木生育への影響度	5.8	6.0	6.3	4.8
		優：特になし	優：特になし	優：特になし	良：なし
塩基置換容量(CEC)	保肥力 <20 大、20～6 中、>6 小	14 mg/100g	9 mg/100g	7.6 g/100g	8.2 g/100g
		中	中	中	中
総合評価	改良の必要性	必要 大	全面改良	表土改良	緑泥石排除
		改良の必要性あり。特に排水性を一定に確保する。	改良の必要性特にあり。表土改良及び下層部排水性の確保。	表土改良の必要あり。	PH改良。

表3 平成25年度実施 烏帽子山公園桜樹勢調査実施箇所及び土壌調査結果

南側斜面のような土壌栄養の乏しい場所の土壌改良には、継続した施肥作業が有効である。鳥帽子山公園の施肥作業は、各種団体による壺肥が中心となっている。壺肥は、一本の桜あたり、深さ約20cmの穴を5～10箇所程開け、その中に肥料を入れていくという方法である。固形肥料5個程度を穴の中に入れ、その上に穴をふさぐようにバーク堆肥を被せる。さらに、粒状固形肥料を周辺に撒く。穴を開ける作業は、基本的には重機を使って行うが、重機が入れないところは人力で作業している。

今後も行政や地域による作業の継続が必要である。

枝葉先端から同心円上に
穴を開け肥料を入れる

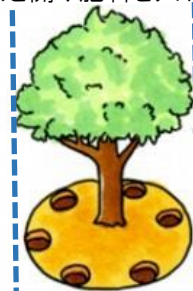
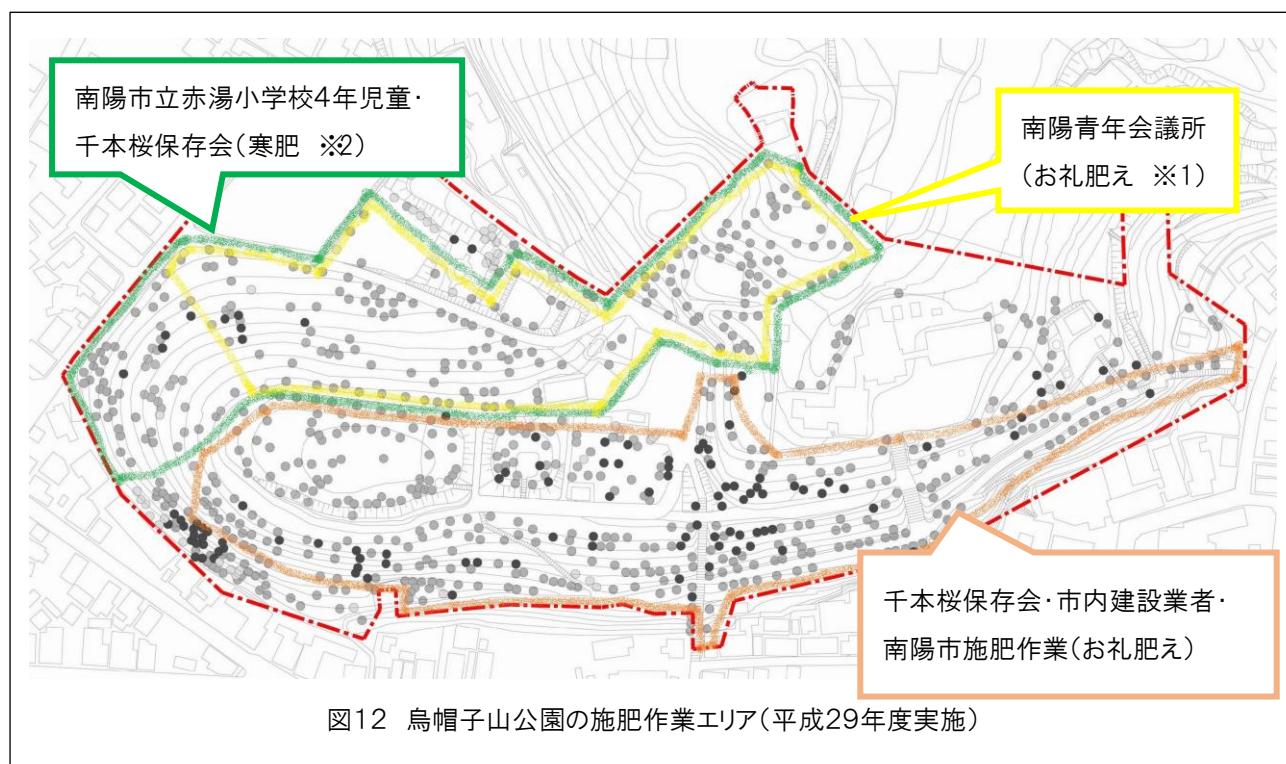


図11 施肥作業の方法
(イメージ図)



※1 お礼肥え・・・開花期の終わりに、消耗した樹木に栄養補給として肥料を与えること。

感謝の気持ちを込めて「礼肥」という。

※2 寒 肥・・・秋の終わりに樹木の自力を付けさせるために肥料を与えること。

⑥ 根系対策

根系の衰弱を防ぐため、烏帽子山公園では次の二つの対策を行っている。

一つ目は、盛土による根系衰弱の調査・対策の検討である。烏帽子山公園は、昭和55年頃に公園整備が行われている。それは、園路や花壇など外観の整備が中心であり、地形整備のための切土造成後に衣土15cm程度が盛土され、張芝が行われた。

衣土は、当地では安価で整形作業に向いている真砂土が多く使用されているが、土壤栄養に乏しく表面が硬く締まりやすいため、保水性や保肥性に乏しく根が酸欠状態になりがちである。15cm程度の盛土圧では急速な樹勢の衰えの原因になることはないが、長年を経て徐々に悪影響が出てきている。状況としては、花つきが悪くなる、枯枝が目立つようになる、葉の量が徐々に減少するなどである。

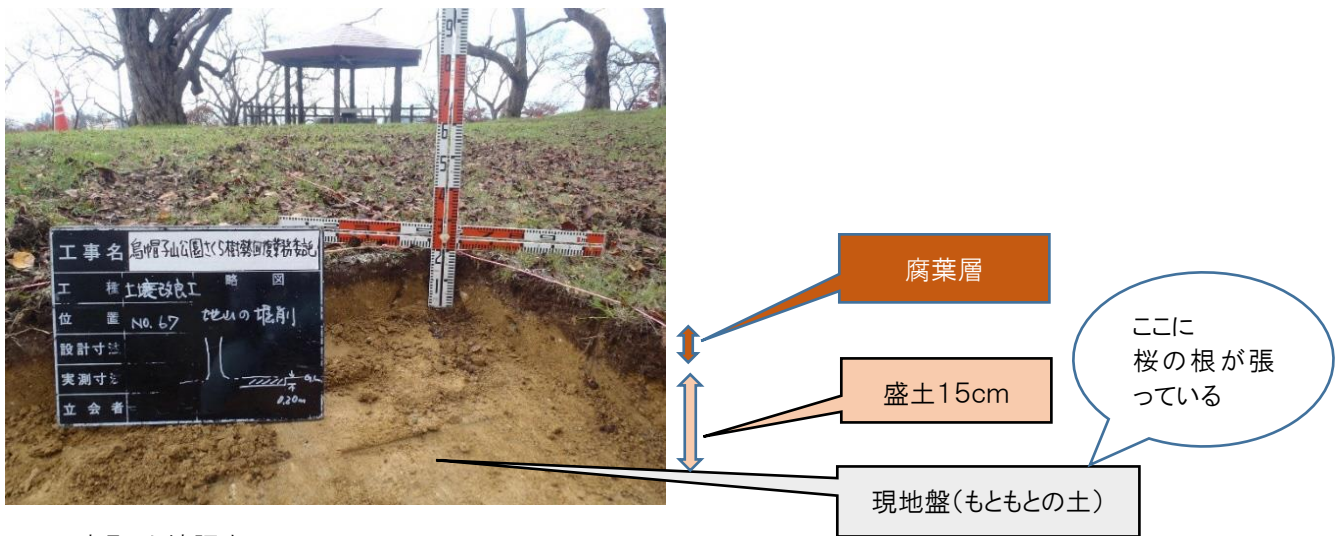


写真5 土壌調査

平成26年に実施した盛土された桜の根系についての調査では、桜の根が張っている現地盤(もともとの土)の上に約15cmの盛土があり、その上に落ち葉が腐食し蓄積した腐葉層が重なっている状況が確認できた。せっきくの腐葉層があっても、根との間に盛土があるため、根が栄養分を吸収できない状況であった。

また、盛土を掘り返し根系の様子を確認したところ発根量が少なかった。

この後、盛土を取り除き、排水性の良い土を入れるなどの土壌改良を行ったところ新しい根の発生が確認され、盛土が根系に悪影響を与えることが分かった。

このような衣土が盛土された範囲は、掘きり周辺と推測されるが、対策が必要なエリアの確定のためには土壌調査を行うことが必要である。エリアを決定した後、桜の樹勢を考慮しながら実施を検討すべきと思われる。



写真6 根系調査

細い根がほとんどない。もっと張ってなければならない。

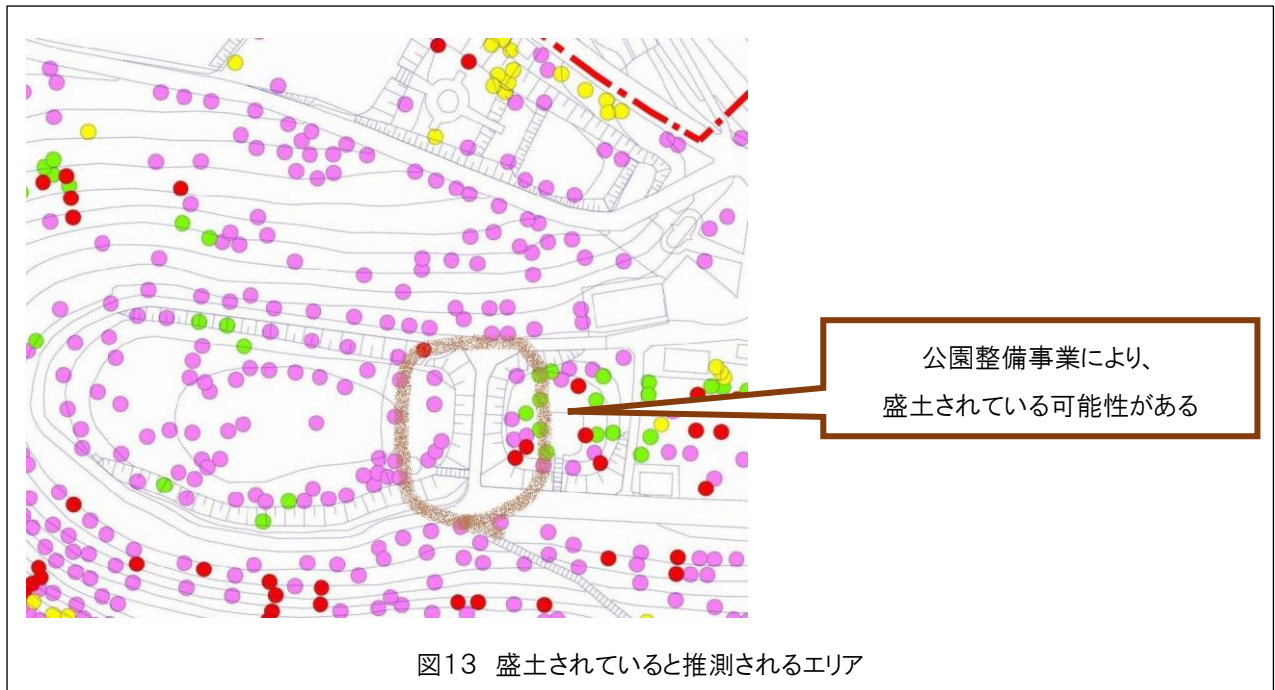


図13 盛土されていると推測されるエリア

根系対策の二つ目は、踏圧対策である。

踏圧とは、観光客の増加により、必要以上に敷地へ進入することで樹木根系に踏圧の影響が出て衰弱することである。

毎年、開花時期に一気に人が訪れる園地の桜にはストレスが生じ、根へのダメージが進行する。また、急に有名になったことで、これまで人が立ち入らなかった生息地一気に人が進入した場合などは、人の進入の累積回数が少なくとも衰弱してしまう場合がある。これは樹木がストレスに弱いことを示している。

効果的な踏圧対策は、桜の根元を踏まれないように、人が必要以上に桜に近づくことのないよう桜の周囲に柵を設置したり、良好な視点場（ビューポイント）を設置して来園者を誘導したりすることである。

烏帽子山公園は園路整備が進んでいるため、現在はそれほど深刻な状態ではないと思われる。そのため、特に必要と思われる数本のための設置にとどめている。しかし、桜の老齢化や観光客の増加など状況の変化があった場合は、柵の増設を検討しなければならない。



図14 進入防止柵の設置

⑦ 病害虫・鳥対策

鳥帽子山公園の桜（特にソメイヨシノ）の病気の中で顕著なものはテングス病である。テングス病はカビの一種が原因で発生する伝染病であり、花つきが悪くなってしまう。そのまま放置すると病気の蔓延による衰退や他の桜への感染の原因となるため、発見次第に切除して、焼却処分を徹底している。コウヤク病に関しては一部見られるが、今後増える様子が見られれば樹勢が衰える前に対処している。

また、害虫で顕著なものは、アメシロやモンクロシャチホコなどの毛虫類であり、発見次第駆除している。最近少なくなったコスカシバも同様である。今後は消毒による予防対策を実施したうえで、発生の際は現在の方法を維持しながら、これまで同様に早めの対応を徹底していく必要がある。

その際桜に使用する薬剤は、法令順守を徹底し、環境に優しいものを使用するよう努めていく。

鳥帽子山公園の鳥害は、近年はウソによる花芽の食害が問題となっている。平成20年までは農薬登録された忌避剤を使用していたが、その後生産中止になり、現在は流通していないため使用できなくなった。

薬剤を使用できない代わりに、電子音式防鳥器の設置や人による巡回等を実施してきた。加えて今後は、猛禽類（タカ等）による駆除を試みる計画である。どの桜の名所でも鳥害には頭を悩ませており、これといった特効薬は見当たらない状況である。どの対策が効果的であるのかを引き続き検証していく必要がある。

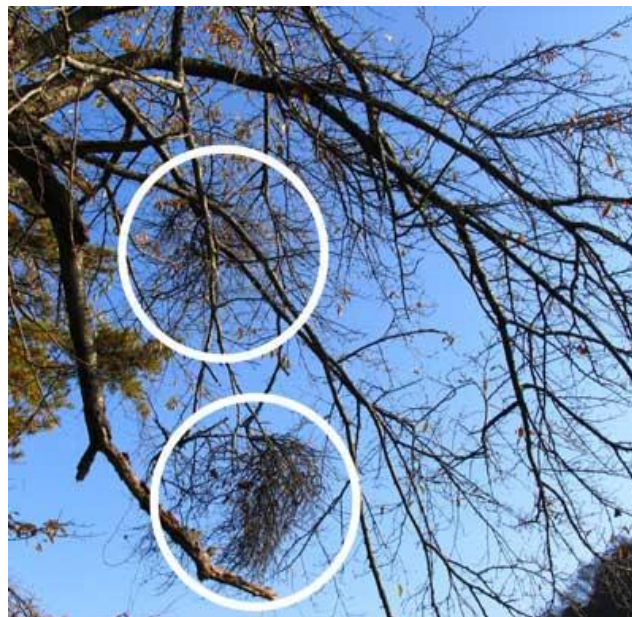
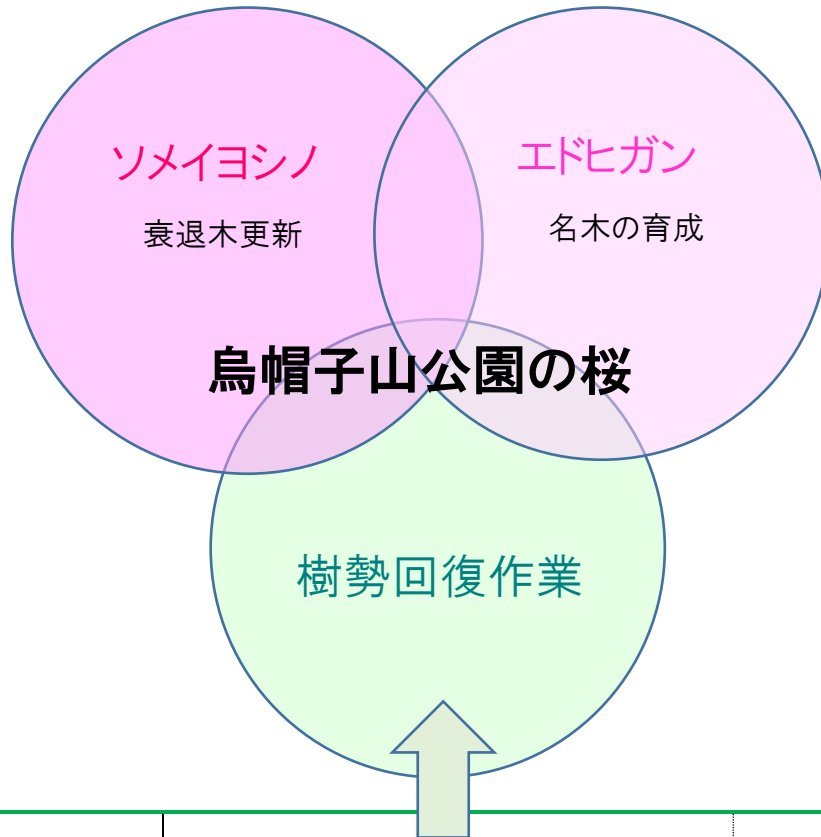


写真7 桜に発生したテングス病



写真8 鳥帽子山公園に設置した電子音式防鳥器
園内に4器設置し、不定期にウソが嫌う鳥の
鳴き声を流している

烏帽子山公園の桜の保全・管理の体系図



	短期的目標	中期的目標	長期的目標
過密状態の解消	間伐・伐採・剪定の継続的实施 更新木の検討		→
低木化	試験実施 →	成果の確認 →	本格実施 →
施肥	施肥作業の継続的实施		→
根系対策	盛土の調査 踏圧の調査 →	エリアの選定 →	表土の除去の実施 土壌改良・発根促進 柵の設置の実施 →
病虫害・鳥対策	早期対応の実施を継続		→

(3) 伐採木の活用

桜の管理において不可欠な間伐や伐採、剪定は残材を発生させる。残材も切られるまでは、たくさんの花を咲かせ鳥帽子山公園を彩ってくれた貴重な財産である。現在の活用としては、3月の剪定を行った後に、剪定枝を希望する市民に配布している。伐採後も有効的に活用できるよう工夫と検討が必要である。

活用例

1 バイオマス・環境材としての利用

① 園路舗装のチップ材としての利活用

園路に敷き均しながら、歩道の整備を図る。ただし、チップは生材であることから発酵し腐朽する。そのため、樹木の根回りに敷きならすことは樹木衰弱の原因になるため行わない。

② バイオマス材としての利活用

伐採木を薪ストーブの材料として希望する市民に配布する。

③ 環境材としての利活用

炭焼き材料や燻製材料にする。

2 休憩施設や土木施設の材料としての利用

① ベンチなどの材料としての利活用

自然乾燥を経て、製材し特徴あるベンチなどに再生していく。

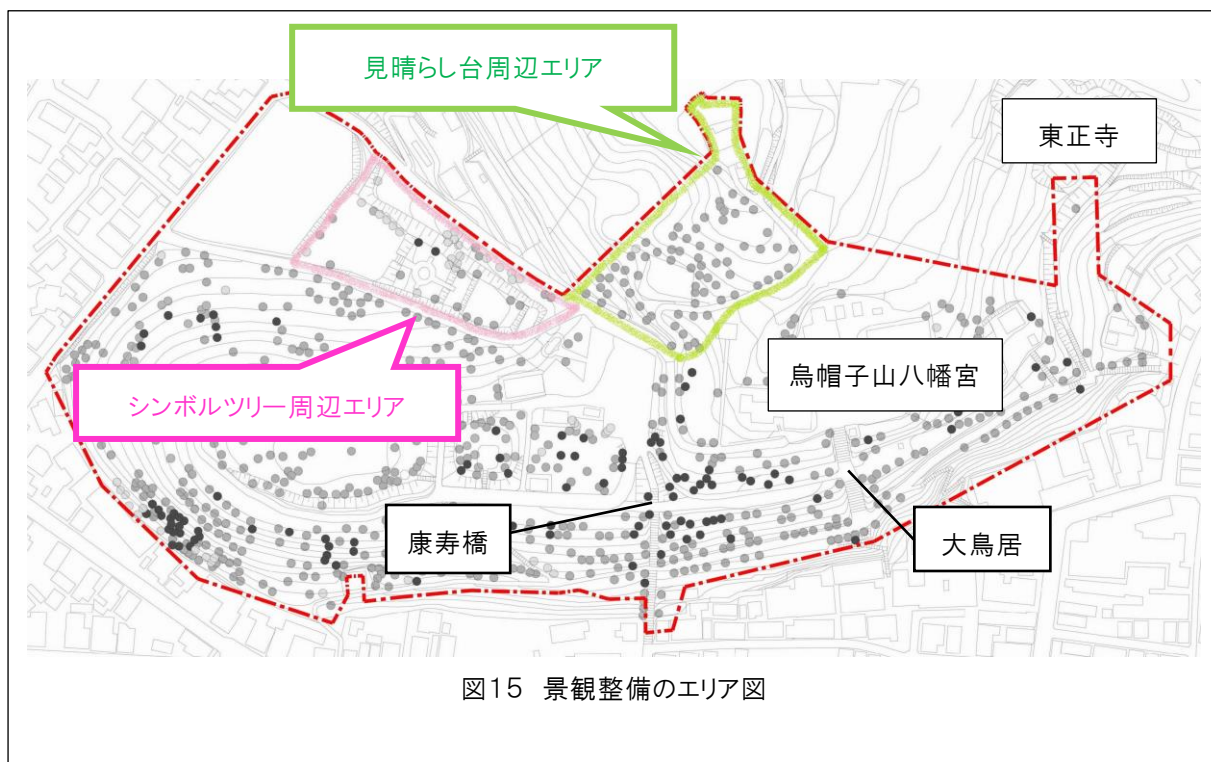
② 木製階段や土止め柵の代替えとしての利活用

5 烏帽子山公園の景観整備

園内の桜の景観をより楽しむことができるように、次の整備を行う。

(1) 公園内の視点場（ビューポイント）の整備

桜の視点場の整備は、その場所で桜のどのような部分を見せたいのか、いかにすれば見てもらい易いかを検討したうえで実施する。



①シンボルツリー周辺エリア

シンボルツリーとは、平成29年、エリア中央の円形花壇に移植した1本の桜のことである。

移植した桜は災害復旧のシンボル

南陽市は、平成25年と26年に二年連続で豪雨に見舞われた。赤湯地区では吉野川が氾濫し、家屋の浸水や農地・道路の冠水など甚大な被害が出た。この災害を受け、二度とこのような被害が出ないように流域の治水安全度の向上を図るための河川改修工事が行われることになった。しかし、この工事は河川の断面積を広げ流下能力を確保するもので、既存の堤防を移設することになったため、吉野川の堤防に沿って植栽されていた20本以上もの桜がすべて伐採されることになった。

伐採された桜は、赤湯の花見スポットのひとつであった。赤湯小学校から烏帽子山公園を見上げた際には、烏帽子山公園の桜とあいまって視界いっぱいにひろがる見事な風景をもたらしてくれた。何とかしてこの桜を将来まで残したいという市民の願いから、そのうちの1本を南陽市の桜の名所である烏帽子山公園に移植したものである。

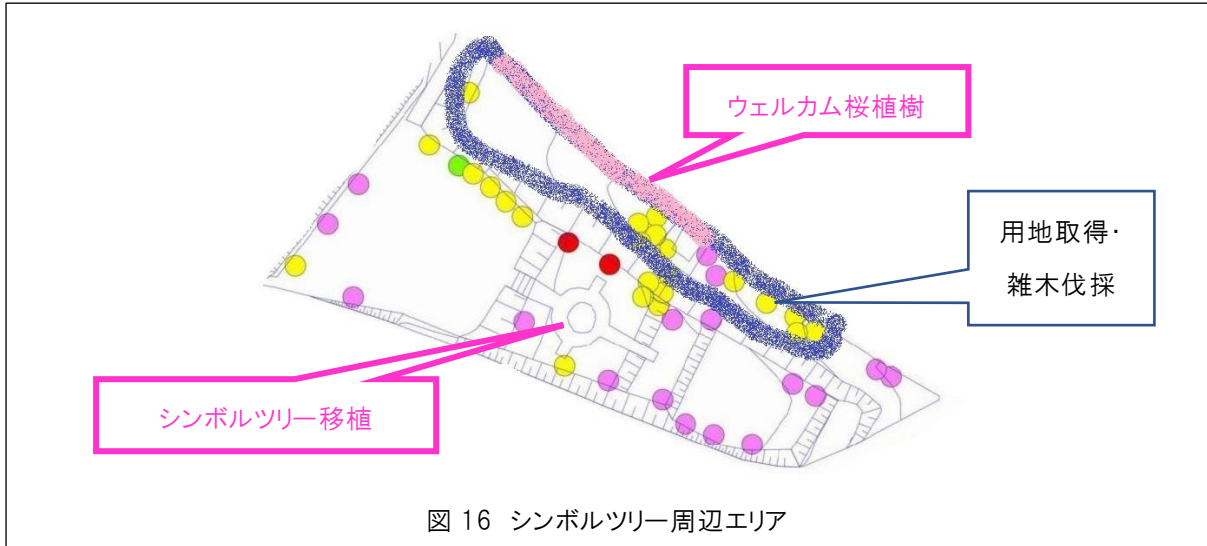


写真9 堤防の桜の様子

工事のために
伐採された桜

災害復旧のシンボルツリーであるとともに、このエリアを彩る中心の桜とする。

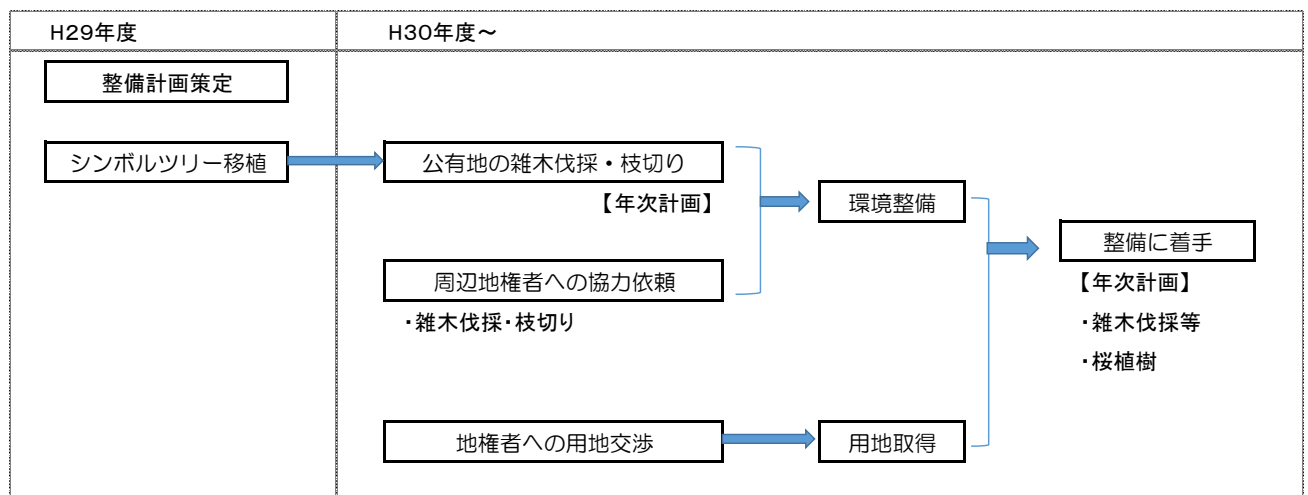
シンボルツリー周辺エリアは駐車場に隣接し、車で来園する人々が一番先に足を踏み入れる場所である。来園者への歓迎の意を示し快く迎え入れる場としてふさわしい空間にするために、桜の植樹を中心に据えた整備を行う。



このエリアは、エリア北側に沿って伸びる道路の南側に一部民有地が含まれる。公園管理の面から公有地とすることが望ましいと考えられる。また、車で訪れた来園者を園内に導き入れる場所であることから、用地を取得したのちには、雑木伐採などの環境整備を行ったうえで、来園者を迎える「ウェルカム桜」を道路に沿って南側に新植することを検討する。場所的にも法面の上部で南側に開けている場所であり日照条件が良いことから、植栽する樹種は烏帽子山公園の特色のひとつであり寿命が長いエドヒガンが適当と思われる。

植樹後は、桜の景観をよりよいものにするため、また、桜の生育環境を望ましいものにするため、エリア全域において間伐、伐採及び剪定を実施する。

整備スケジュール



整備完了後のシンボルツリー周辺エリア



図 17 駐車場から見るシンボルツリー



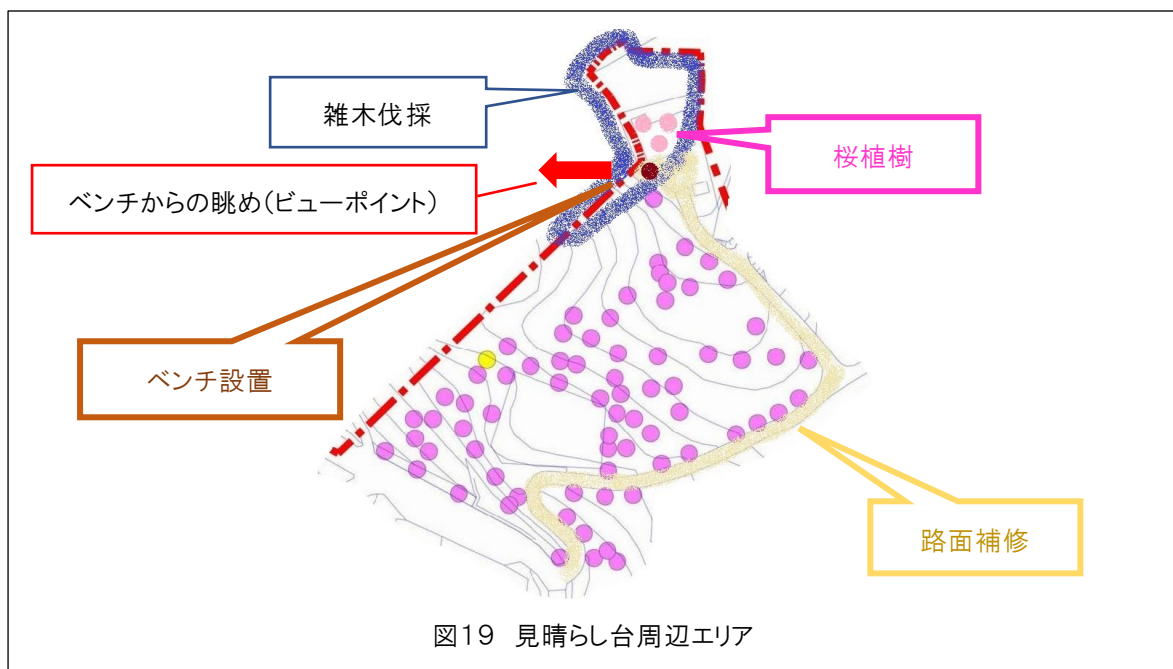
図 18 シンボルツリーと道路沿線のウェルカム桜

② 見晴らし台周辺エリア

見晴らし台周辺エリアには、戦国時代には物見として使用されるなど、園内で一番遠望がきく高台がある。最大の特徴はその眺望の良さである。

しかし、そこには以前売店として利用されていた建物が長い間放置されていた。公園の特色となり、集客スポットとなり得るこの場所をこのまま放置することは、非常に勿体ないことである。

そこで、手前に烏帽子山の桜、そこから続く赤湯の町並み、さらに後方にひろがる飯豊連峰の山並みが一望できる公園内のビューポイントとして整備する。



まずは、眺望を阻害する雑木の撤去を行う。ただし、このエリアは公有地と私有地が混在するため、公有地については市が計画を立てたうえで順次伐採を行い、私有地については地権者に伐採等の協力を求めていくことになる。

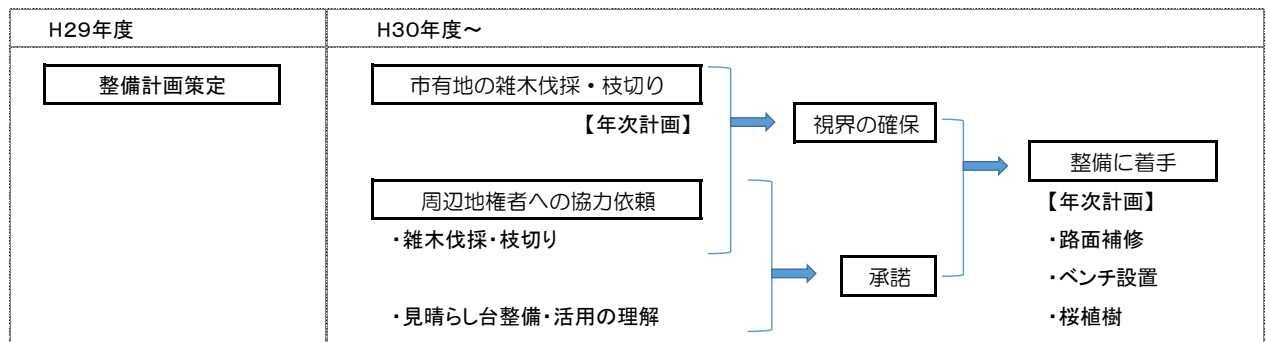
一定の視界を確保した後に、高台からの風景が一番きれい

に見える場所にベンチを設置し、安らぎの場とする。加えて、烏帽子山駐車場から高台までの通路の路面補修を行う。現在の通路は舗装の状態が芳しくないため、来園者が安全に歩けるよ

う整備する。

合わせて、高台からの景色を楽しむために見晴らし台を訪れた人々が、同時に桜を楽しむことができるように建物を解体した跡地に桜を植樹する。植樹予定の場所は十分な広さがあること、高台であり日照条件が良好であることから、植栽する樹種はエドヒガンとし、将来的には、烏帽子山公園を代表するような巨木に育つよう見守っていきたい。

整備スケジュール



整備完了後の見晴らし台周辺エリア

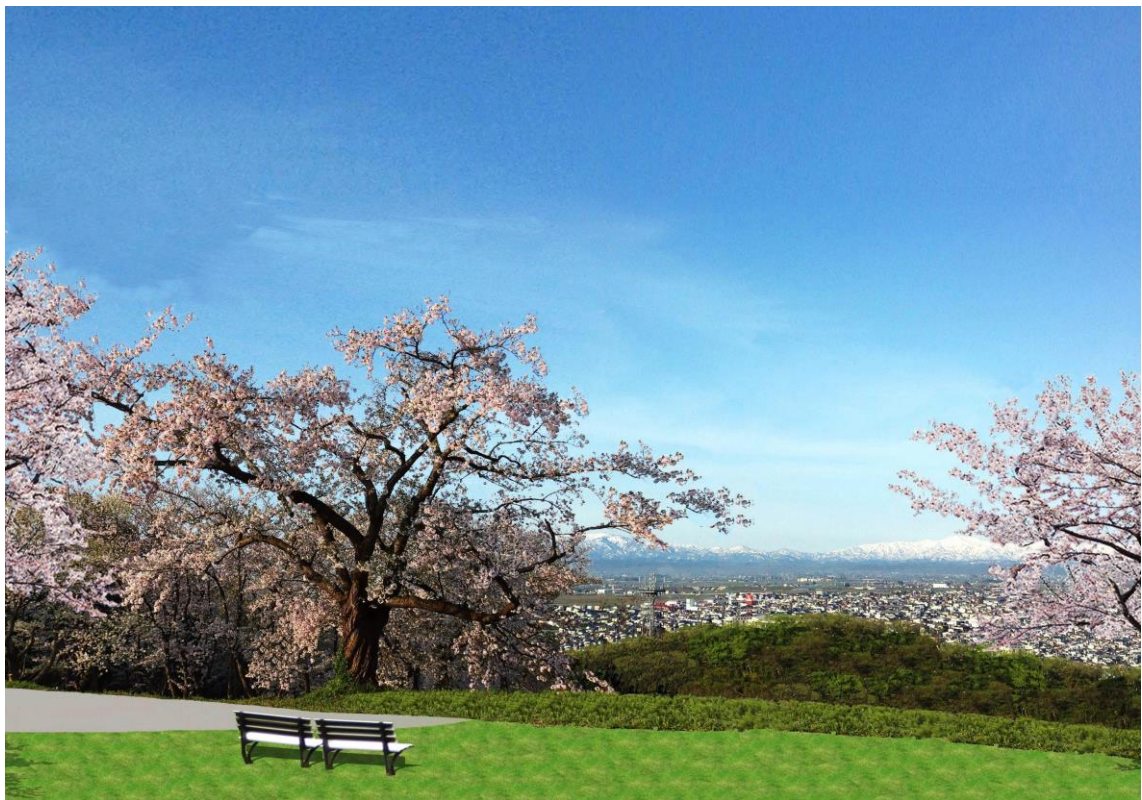


図20 見晴らし台から市街地を望む



図21 見晴らし台に植樹した桜

③ その他

烏帽子山公園には、大鳥居や東正寺など貴重な歴史的建造物がみられる。春には、それらが桜とあいまってすばらしい景観をつくり出している。桜の管理と合わせて、これらの歴史的建造物を保全し将来まで残していくことが、烏帽子山公園の景観を守ることにつながるであろう。

また、園内には桜のほかにも多数の樹木が植生する。桜に次いで多いのがもみじである。100本を超えるもみじが植栽され、「桜と大鳥居」と同様に、「もみじ」も歴史的建造物の「康寿橋」と一緒に見ることでより美しいものとなっている。

さらに、公園の景観には松や杉などの緑もかかせない。特に桜の花は、緑とともにあることでよりいっそう映える。緑が烏帽子山を染める多様なピンク色を引き立てる役割を果たしているためである。これらの樹木についても、桜と同様に管理を行っていく。

烏帽子山公園には桜の季節はもちろんのこと、そのほかの季節もすばらしい風景がひろがっており、公園に足を運ぶことでその景色を楽しみ、季節の移ろいを感じることができる。

[桜と歴史的建造物]

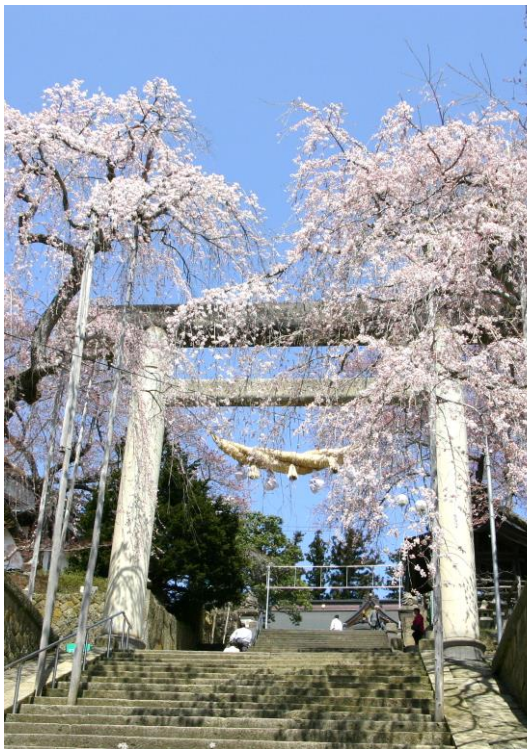


写真11 エドヒガンと大鳥居



写真12 シダレザクラと東正寺

[烏帽子山公園の四季の風景]



写真13 烏帽子山八幡宮御神坂



写真14 深緑の園路



写真15 モミジと康寿橋



写真16 降雪の園路

(2) 外から見た烏帽子山公園

烏帽子山公園は、公園全体が小高い丘陵の上であり、街中より一目で見上げることができるロケーションの良さがある。公園全域に桜が植栽されていて、公園外から見るとあたかも一つの桜のように見えるところが大きな魅力である。



写真17 えくぼプラザ周辺から見上げた烏帽子山公園

公園外からの烏帽子山の景観の紹介 ～結城豊太郎記念館～

烏帽子山公園の古木のひとつ「臨雲桜」から赤湯の町を見渡すと、南方200m程先に「結城豊太郎記念館」がある。館内のある窓から烏帽子山を見ると、まるで絵画のような烏帽子山の風景を望むことができる。記念館では、来館者に、ここから見える四季折々の景色を案内しているという。



写真18

結城豊太郎記念館臨雲文庫と
烏帽子山公園の桜

桜の季節には、空間一面にひろがる桜のすばらしい風景を楽しむことができる。これも烏帽子山公園の桜の景観のひとつであり、後世に残していきたいものである。

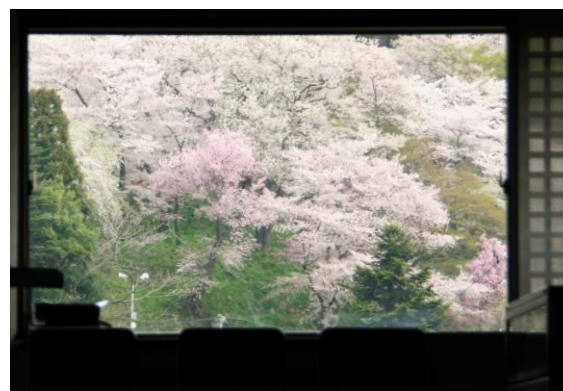


写真19 窓から見た烏帽子山公園

園内のみならず、園外にも烏帽子山公園のすばらしい景観は存在する。将来的には、園外にも目を向け、園内と合わせて整備していくことが必要と思われる。

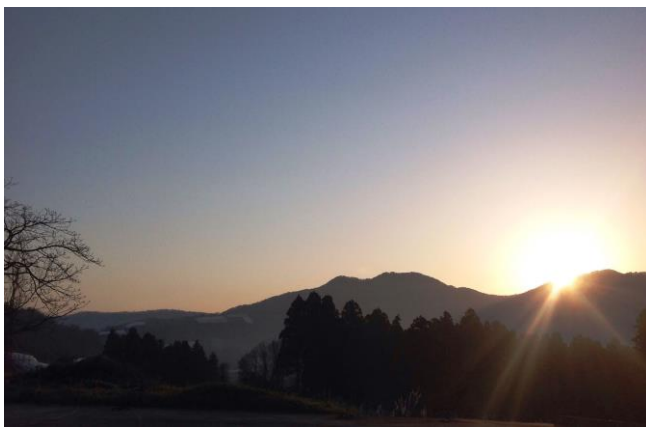
(3) 烏帽子山公園からの景色

烏帽子山公園が高台に立地することは、街中から見上げることが容易であると同時に、園内からの遠望が利く。来園者が園内の樹木や建造物の風景を楽しむとともに、遠くを望み見て自然風景に癒され、眼下に開けた町並みを見下ろしその景色を楽しむことができる。



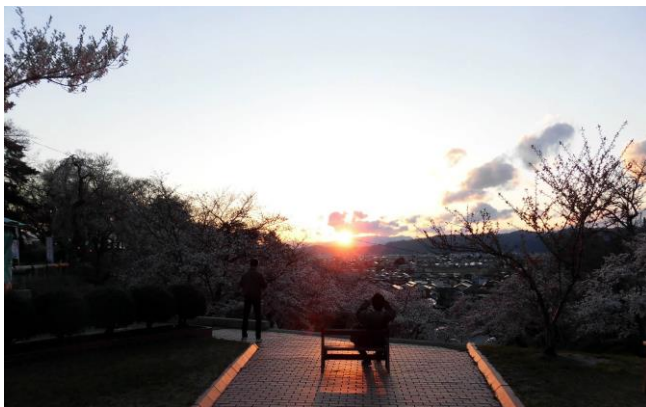
駐車場から飯豊連峰を眺める

写真20



見晴らし台から蔵王連峰の日の出を望む

写真21



市章階段上のベンチから夕日を眺める

写真22

6 烏帽子山公園の草花

烏帽子山公園には、様々な草花が自生しており、桜の季節以外にも四季折々の美しい花が咲いている。

春を感じる主な草花



1. フキノトウ(蔦の臺)
【キク科フキ属】 花期:12~4月



2. オオイヌノフグリ(大犬の麩線り)
【オオバコ科クワガタソウ属】 花期3~4月



3. ハコベ(繁縷)
【ナデシコ科ハコベ属】 花期:3~4月



4. ニホンズイセン(日本水仙)
【ヒガンバナ科スイセン属】 花期:3~4月



5. タチツボスミレ(立坪堇)
【スミレ科スミレ属】 花期:3~5月



6. カキドウシ(垣通し)
【シソ科カキドウシ属】 花期:3~5月

春を感じる主な草花



7. ヘビイチゴ(蛇莓)
【バラ科キジムシロ属】 花期:4~6月



8. ショウジョウバカマ(猩々袴) 花期:4月
【メランチュウム科ショウジョウバカマ属】



9. アズマイチゲ(東一華) 花期:4月
【キンポウゲ科イチリンソウ属】



10. カタバミ(片喰)
【カタバミ科カタバミ属】 花期:4~10月



11. シャガ(射干)
【アヤメ科ネアヤメ属】 花期:5月



12. ホトケノザ(仏の座)
【シソ科オドリコソウ属】 花期5~8月

夏を感じる主な草花



13. ミヤコグサ(都草)
【マメ科ミヤコグサ属】 花期:6~8月



14. ネジバナ(振花)
【ネジ科ネジバナ属】 花期:6~8月



15. ミズヒキ(水引)
【ダテ科キヌダテ属】 花期:6~8月



16. セントウソウ(仙洞草)
【セリ科セントウソウ属】 花期:6~8月



17. ホタルブクロ(蛍袋)
【キキョウ科ホタルブクロ属】 花期:6~9月



18. クサノオウ(瘡の王)
【ケシ科クサノオウ属】 花期:7~8月

秋を感じる主な草花



19. コバギボウシ(小葉擬宝珠)
【リュウゼンラン亜科ギボウシ属】 花期:7~8月



20. ノアザミ(野薊)
【キク科アザミ属】 花期:7~9月



21. ヤブカンゾウ(薺萱草)
【ユリ科ワスレグサ属】 花期:8~9月



22. オミナエシ(女郎花)
【オミナエシ科オミナエシ属】 花期:8~9月



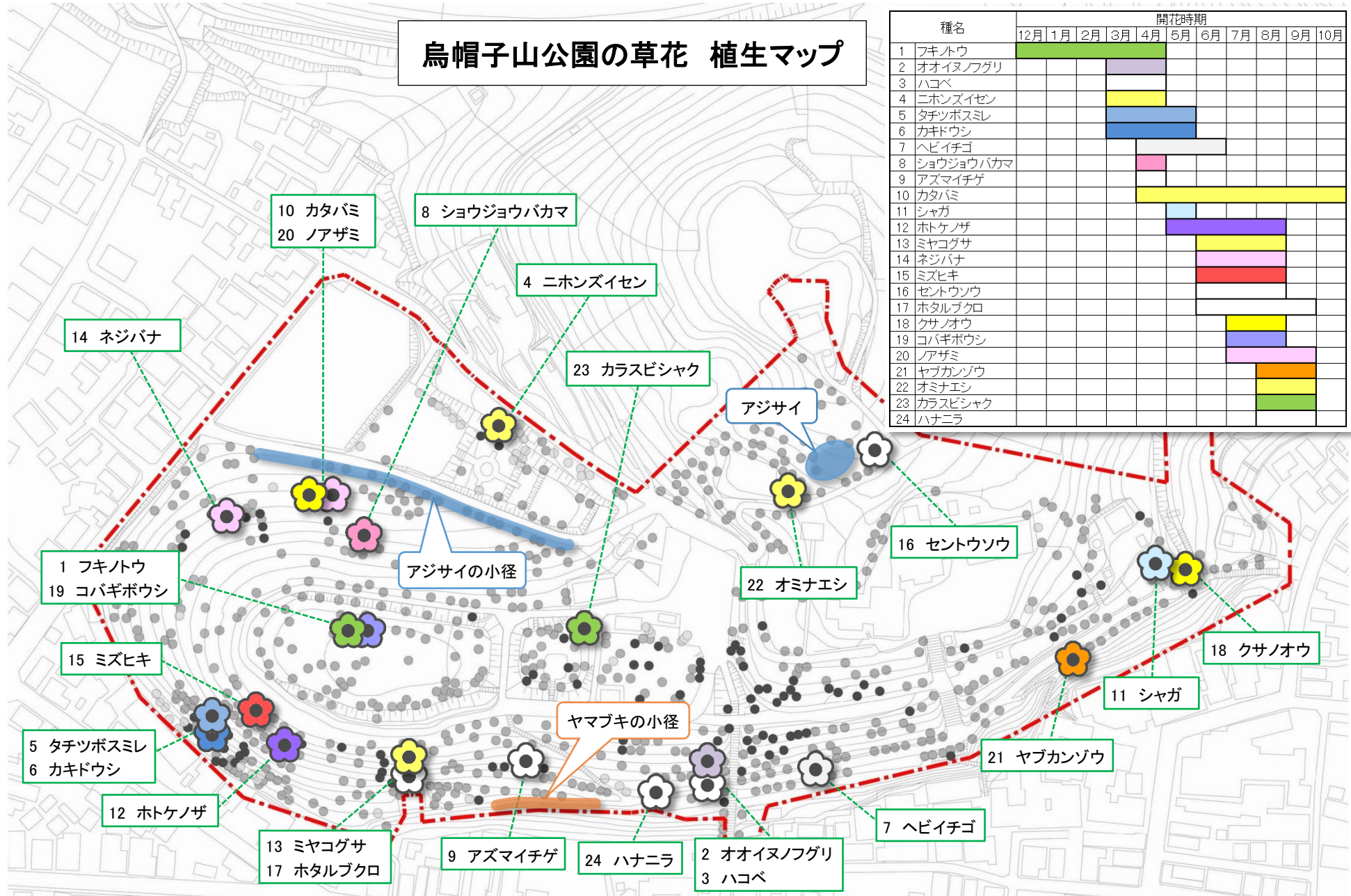
23. カラスビシャク(烏柄杓)
【サトイモ科ハンゲ属】 花期:8~9月



24. ハナニラ(花萼)
【ヒガンバナ科ハナニラ属】 花期:8~9月

烏帽子山公園の草花 植生マップ

種名	開花時期										
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1 フキノトウ	■										
2 オオイヌノフグリ				■							
3 ハコベ				■							
4 ニホンズイセン			■	■							
5 タチツボスミレ			■	■	■						
6 カキドウシ			■	■	■						
7 ヘビイチゴ											
8 ショウジョウバカマ					■						
9 アズマイチゲ											
10 カタバミ				■	■	■	■	■	■	■	■
11 シヤガ						■					
12 ホトケノザ						■	■	■	■	■	■
13 ミヤコグサ						■	■	■	■	■	■
14 ネジバナ							■	■	■	■	■
15 ミズヒキ							■	■	■	■	■
16 セントウソウ											
17 ホタルブクロ											
18 クサノオウ								■	■	■	■
19 コバギボウシ								■	■	■	■
20 ノアザミ								■	■	■	■
21 ヤブカンゾウ									■	■	■
22 オミナエシ									■	■	■
23 カラスビシャク										■	■
24 ハナニラ										■	■



7 地域と行政の連携・協力

烏帽子山公園の整備を進めえていくためには、地域と行政との連携及び協力が欠かせない。
これまでも、次のような様々な活動が行われてきた。

実施月	内容	活動主体
4月初旬	春のクリーン作戦	赤湯公民館（市民1000人超）
6月中旬	施肥作業（お礼肥え）	南陽青年会議所（約120人）
6月下旬	施肥作業（お礼肥え）	千本桜保存会・市内建設業者・ 南陽市役所建設課（約50人）
10月下旬	施肥作業（寒肥作業）	千本桜保存会・南陽市立赤湯小学校4年 児童（約150人）
11月中旬	秋のクリーン作戦	赤湯公民館（市民1000人超）
4～11月第1日曜日	定期観察会 （公園巡回及び清掃活動）	千本桜保存会（約10人／1回）

これらの活動を絶やすことなく継続していくことが必要である。

そのためには、地域が烏帽子山公園への愛着心を持ち続けることが必要である。子どものことから烏帽子山公園に関わりを持つことで、生活（意識）の中に当たり前存在するものになるよう、地域と烏帽子山公園の関わりを大切にしていきたい。



春のクリーン作戦

毎年たくさんの市民による園内の清掃活動が行われる。

写真23



施肥作業（お礼肥え）

南陽青年会議所主催。美しい花を咲かせてくれたさくらの樹に感謝の気持ちをこめて施肥する。

写真24



施肥作業（お礼肥え）

南陽青年会議所主催。子どもから大人までたくさんの方々が施肥作業に参加した。

写真25



千本桜保存会・市内建設業者・
南陽建設課による施肥作業（お礼肥え）
傾斜のきつい南側斜面の施肥作業。

写真26



千本桜保存会・南陽市立赤湯小学校4 年児童による寒肥作業

地元の桜の名所を将来につなぐため、
子どもたちが施肥作業を行った。

写真27



千本桜保存会による定期観察会

桜の状況を確認するため巡回する。合
わせて清掃活動も行う。

写真28



烏帽子山八幡宮大鳥居のしめ縄の交換

毎年4月18日に行われるしめ縄の交換に、赤湯小学校児童が参加している。

烏帽子山公園を訪れ、市指定文化財である大鳥居の年中行事に立ち会うことは、その歴史的価値を知り、愛着心や関心を持つきっかけになる。

写真29



写真30

地域の活動に加えて、市行政の組織間の連携についても検討しなければならない。

公園管理を主体となって行う建設部門、市の政策について統べる企画部門、また市の観光事業を担う観光部門などの横のつながりを強化していく必要があるだろう。

個々の事業で完結するのではなく、他部門と情報交換し協力し、全体を考慮した事業が実施できるよう努めていかなければならない。

資 料

烏帽子山公園周辺整備計画ワークショップ

【ワークショップの目的】

烏帽子山の桜の個性及び魅力を再確認し、公園全体の価値を高めて次世代に引き継いでいけるよう、桜の維持管理方針及び総合的な公園整備のあり方に関する基本構想を作成にあたり、市民の意見や提案をまとめ基本構想に反映することを目的とする。

【ワークショップメンバー】

市民代表の19名

【開催日及び内容】

第1回 平成29年 6月30日（金）

1. 烏帽子山公園周辺整備計画ワークショップの趣旨等の説明
2. 歴史講義① 結城豊太郎記念館 館長 加藤 正人氏
「烏帽子山公園はいつ頃どのようにしてできたか」
3. 歴史講義② 南陽市社会教育課 課長補佐兼埋蔵文化財係長 角田朋行氏
「烏帽子山の自然と歴史」
4. 烏帽子山公園現地踏査

第2回 平成29年 8月31日（木）

1. 講義① 板垣設計事務所 板垣 正朋氏
「烏帽子山公園に咲く野草について」
2. 講義② 樹木医 三森 和裕氏
「桜の話」
3. グループワーク（3班に分かれてグループ討論）
テーマ「将来も、桜をはじめ季節の草花が咲き誇り、市を代表する憩いの場として市民に愛される烏帽子山公園にするためには、どうすればよいか」

第3回 平成29年11月10日（木）

1. 第2回ワークショップの振り返り
 - ・第2回ワークショップのまとめについて
 - ・整備計画書案、計画書の力点について
2. 計画書の内容について① 樹木医 三森 和裕氏
「目的、烏帽子山の桜の歴史、桜の現状と課題」
3. 計画書の内容について② 平林造園 代表 平林 敏男氏
「桜の保全・管理、烏帽子山公園の景観整備」

【第2回ワークショップ資料】

烏帽子山公園周辺整備計画グループワーク 個人ワークシート

烏帽子山公園周辺整備計画

- 烏帽子山公園の桜の個性・魅力を知る
- 公園全体の価値（自然・景観整備）を高める

次世代に引き継ぐ

ための計画です。

○ワークショップやフィールドワークから感じたこと

<p>桜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹種 ・きれいに咲くためには... 	<p>景観</p> <p>(桜の視点線 (ビューポイント))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みはらし台 ・市庁階段 ・大鳥居 	<p>烏帽子山の宝</p> <p>(守りたいもの・ 残したいもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・烏帽子山にしかない○○○ ・自然 ・風景 ・守るためには...
<p>守りたいもの</p>	<p>守りたいもの</p>	<p>守りたいもの</p>
<p>改善したいもの</p> <p>対策・手法は？ (すぐ、検討、将来)</p>	<p>改善したいもの</p> <p>対策・手法は？ (すぐ、検討、将来)</p>	<p>改善したいもの</p> <p>対策・手法は？ (すぐ、検討、将来)</p>

計画の実行により

将来も、桜をはじめ季節の草花が咲き誇り、
市を代表する憩いの場として市民に愛される烏帽子山公園

グループワーク 班ごとのワークシート

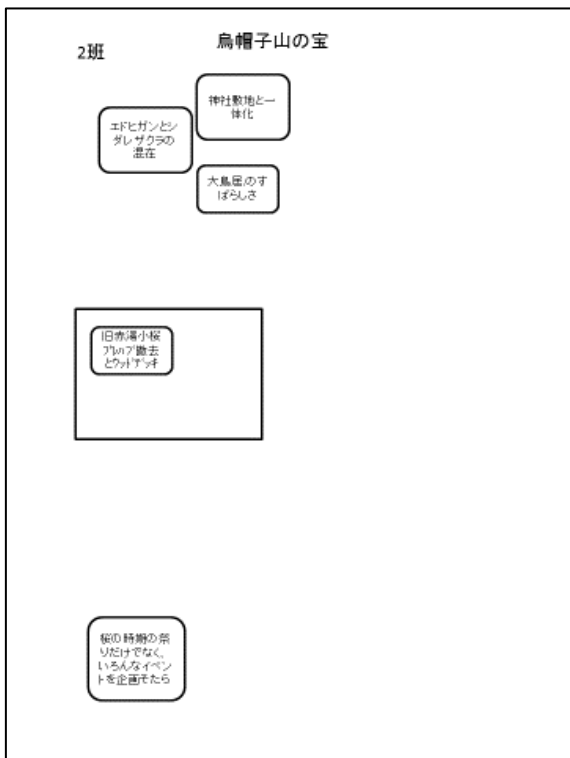
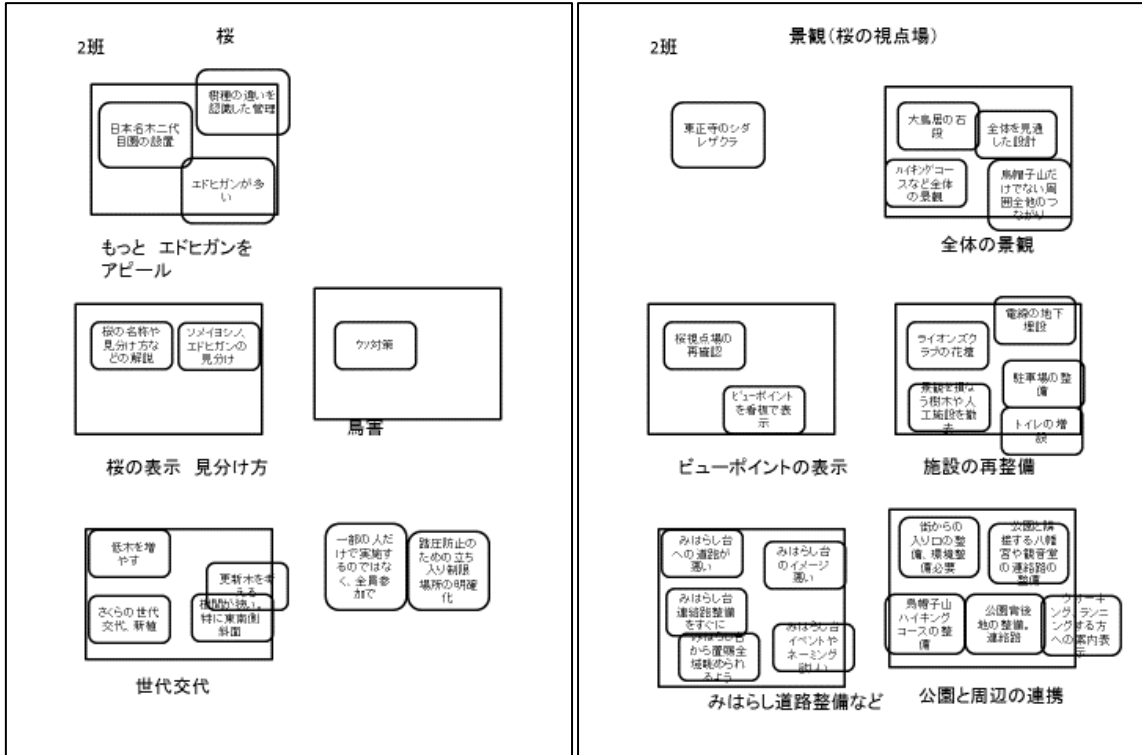
1 班

<p>1班 桜</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> エドヒガン中心の樹木 ほかの特 徴をさらに </div> <p>もっと エドヒガンを アピール</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 世代交代の 樹木の選定 ソメイヨシノ の更新 桜の選定 </div> <p>樹木の選定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 低木化と 間伐、衰弱 木の伐採 樹高調整、 光を入れる 間伐と、補 植する場所 の確保 樹木を調整 し枝葉を増 やす </div> <p>間伐・本数調整</p>	<p>表示板</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 議の名前を 一語の方から かりやすいよ うに エドヒガンに 関する表示 を </div> <p>鳥害</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> クツ対策 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> A、bエリアに人が入らない ような工夫、芝草など </div>
<p>1班 景観(桜の視点場)</p>	
<p>みはらし台</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 赤湯駅、十部 一方向が見た い 日の出、夕 日 新しい視点場 として整備 </div> <p>ビューポイントの設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 花見の前 口のの整備 景観ポイント の新たな設 定 </div> <p>整備</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 南側、手 道のほり口 の整備 みはらし台 の整備 みはらし台 にゆるやかな 道を </div>	<p>全体の景観</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 大鳥居の石 段 全体を見通 した設計 カイバシゴ コースなど 全体の景 観 鳥帽子山 だけでない 周囲全体の つながり </div> <p>雑木の伐採</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 西側の松な どを伐採 杉林を除却 前の手入れ 見通しの悪 い樹木の伐 採 </div>

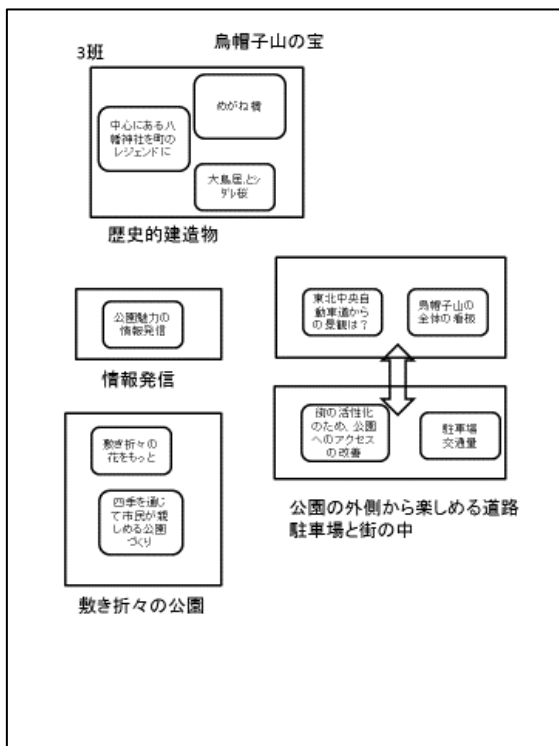
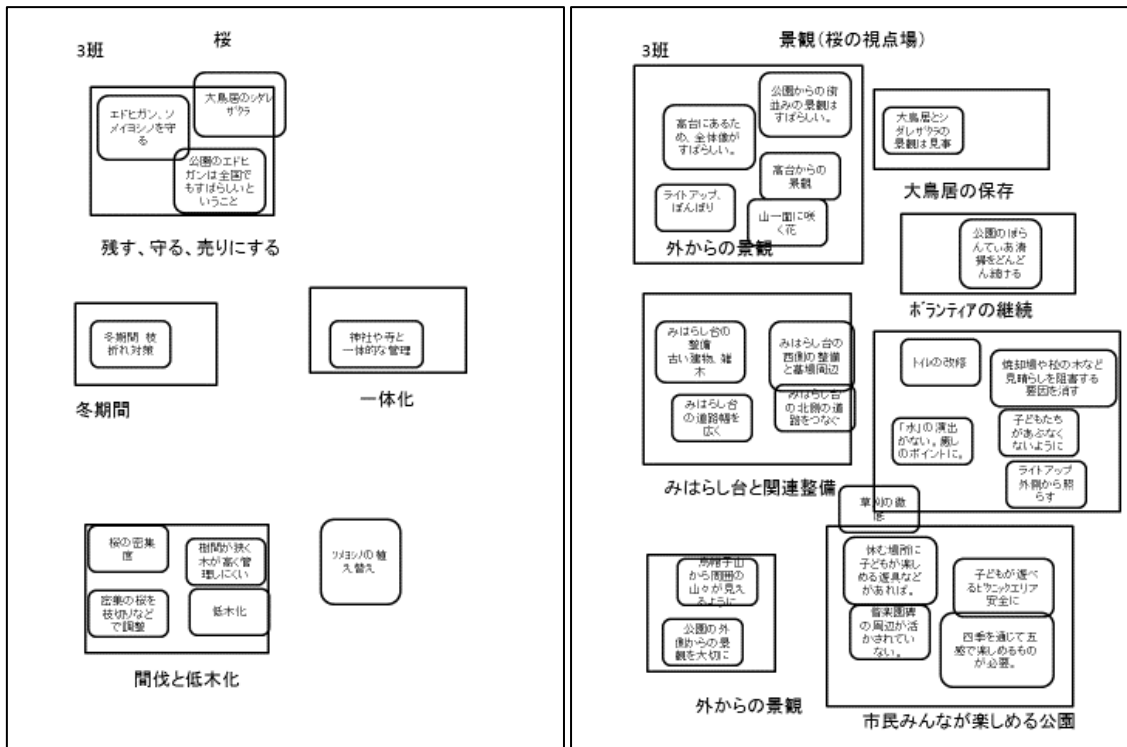
1班 鳥帽子山の宝

<p>桜以外の花をもっと</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 花見山によ うにいろいろな 花などがた くさん いろいろな花が 咲く 山全体の景 観 </div> <p>体制</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 地域、行政 が一体とな り 労力を要す る仕事が多 い 若者の参加 を </div>	<p>神社など</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 八幡宮境内 温泉神 社 鳥帽子 石 鳥帽子 山の初 め忘れ ず </div>
<p>山全体を 公園と考 える。公、民の 共同 上の部 分は自然のま までいいの か？ 桜の時期以 外の見せ場</p>	

2 班



3班



【第3回ワークショップ資料】

烏帽子山公園周辺整備計画ワークショップ グループワークまとめ

1. 第2回ワークショップ開催日時及び会場

平成29年8月31日（木） 13：30～ えくぼプラザ

2. テーマ

「将来も、桜をはじめ季節の草花が咲き誇り、市を代表する憩いの場として市民に愛される烏帽子山公園」にするためには、どうすればよいか。

3. 主な意見

烏帽子山公園の守りたいもの（良いところ）
○エドヒガン
ひとつの山にあれだけの本数がある。群生している公園は全国的に見ても珍しく、素晴らしい。エドヒガンの山として魅力をアピールしたい。 ※烏帽子山公園にあるエドヒガンの本数は約160本。エドヒガンの生育年数は800～1200年（ピークが500～600年）。ソメイヨシノ100年前後（ピークが60年前後）。烏帽子山のエドヒガンはこれから隆盛を誇る。
○公園からの景観・外から見た烏帽子山の全景
高台にある公園のため、回りの景色を一望できる。公園から見える街並や日の出・夕日は美しく、素晴らしい景観スポットである。また、公園外から見た烏帽子山の全景が素晴らしい。山一面の桜。（えくぼプラザの屋上や結城豊太郎記念館の2階からの眺めは素晴らしい。）
○桜以外の草花
公園内には、アジサイや様々な山野草が植生し、季節ごとに美しい花を咲かせている。
○歴史的建造物
八幡宮、東正寺とひとつの山をなしており、大鳥居に代表される建造物が桜と一体となり素晴らしい。

烏帽子山公園の改善したいもの

今すぐ（短期目標）

- 桜の世代交代…ソメイヨシノは老木。更新する際は、桜の樹種も要検討
- 桜の標示板の設置…樹種（エドヒガン・ソメイヨシノ等）の見分けができるように。
- 桜のビューポイントの設置…美しい桜を見ることができる視点場の設置。案内標示。
- みはらし台の整備に着手…みはらし台から景色を眺望できるように。みはらし台までの道路の整備。
- 烏帽子山の情報発信…看板の設置等
- 公園内の施設整備…駐車場、トイレ、園路・道路等
- 協力体制づくり…地域と行政が一体となって。若者の参加。

検討（中期目標）

- 桜の間伐・低木化…現状は樹間が狭く、樹高が高い。樹木を間引き（本数を減らし）、樹間を広くする。合わせて、低木化を図る。（消毒や剪定などの管理がしやすくなる。桜の花が目線の近くに来る。）
- みはらし台の整備…短期目標から継続
- 公園内の施設整備…短期目標から継続
- 四季を通じて楽しめる公園にする…桜の時期以外も賑わう公園。イベントの検討等。

将来（長期目標）

- 四季を通じて楽しめる公園にする…中期目標から継続

対策の時期	今すぐ（短期）	検討（中期）	将来（長期）
桜の世代交代	→		
桜の標示板設置	→		
桜のビューポイント設置	→		
みはらし台整備	→		
烏帽子山の情報発信	→		
公園内の施設整備	→		
協力体制づくり	→		
桜の間伐・低木化		→	
四季を通じて楽しめる公園		→	

計画書の力点

1、エドヒガンとソメイヨシノが共に美しい公園

- エドヒガンは寿命が長い。烏帽子山公園に群生するエドヒガンは、ほかの公園にはない特色であり、貴重。
- ソメイヨシノはシンプルで綺麗。群生する様は見栄えがするため、人気がある。

- 現存する一本一本の桜がきれいな花を咲かせることができるよう、専門家の意見による樹種にあった管理の実施。(間伐、低木化、更新、施肥、対策箇所の選定等)

山一面の桜 視界いっぱいに広がる桜

山一面をピンクに染める烏帽子山公園の桜を守るため、エドヒガンを計画の中心に据え、市及び千本桜保存会など関係団体が一体となって取り組んでいく。

2、景観の整備

- ワークショップにおいて、みはらし台の関心度は高く、たくさんの意見が出された。みはらし台の整備・活用が求められている。

- みはらし台の整備の検討
- 地域の理解・協力

視点場（ビューポイント）としてのみはらし台

高台のビューポイントから広がる街並み・山並みの眺望

烏帽子山の桜や眺望を楽しむことができるみはらし台。

3、地域と行政の連携・協力

- 地域は、烏帽子山公園をより良くするためのアイデアを持っている。

- 将来も地域に愛される公園にするため、地域とのつながりが必要。
行政と地域が一体となった取り組み。
- 烏帽子山公園の維持や整備に対する地域の理解や協力。

行政と地域でつくる四季を通じて楽しめる公園

- 施肥作業（お礼肥え）、クリーン作戦の継続。
- 季節ごとに咲くアジサイやさまざまな山野草、大鳥居に代表される歴史的建造物など烏帽子山の宝を未来に残す。

これは、烏帽子山公園の一番の宝である桜を中心に据えた計画です。

烏帽子山公園の桜が100年後も200年後も美しい花々を咲かせることができるように、そして、山一面を桜色に染めるあのすばらしい景色を私たちの子どもや孫の代まで残すことができるように、桜の整備の方針として作成します。

この趣旨を地域みなさんにご理解いただき、ご協力いただきながら、烏帽子山公園を守り、市民みなさんの憩いの場としてより良いものにしていきたいと思えます。

烏帽子山公園に植生する貴重な桜、約160本の「エドヒガン」の多くは、まだ120歳程度です。「エドヒガン」の生育年数は800年から1200年と言われますので、烏帽子山公園の「エドヒガン」は、これからいっそう隆盛を誇り、今後数百年にわたり、わたしたちを楽しませてくれることでしょう。

樹木の成長は、非常にゆっくりです。この計画の成果は、すぐに目に見えるものではないかもしれませんが、しかし、100年先を見据え、行政と地域が一体となり、一歩ずつ着実に前に進んでいきたいと考えております。

